京城日報

二十四日夕刊

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

第三十七回帝國議會

衆議院(二十三日)

二十三日午後一時三十分開會諸般の報告あり劈頭高木益太郎氏(國民)より議事の進行に付き發言を求め追加豫算案は本會議に提出し大藏大臣之れが説明演説を爲すを至當とすとて歐洲先進國の例を引證し降壇するや

△武富藏相 登壇追加豫算を本會議に提出するに當り當局大臣之れが説明を爲したる先例もあれば爲さゞりし例もありとて先例を引證して失當に非ずと辯するや山本悌二郎氏(政友)は藏相は本會議に於て説明するの親切なきやと詰り藏相は説明を拒むに非ざるも本日は既に其の必要なしと認むと答へ附記の動議を採決し少數にて直ちに否決次で日程に入り

一、國庫出納金端數計算法 委員長岡崎運平氏(同志)委員會議の經過並に結果を報告し直に可決確定

二、帝國大學特別會計法中改正案 委員長大橋松次郎氏(同志)委員會は審議の結果原案を可決せりと報告し杉山四五郎氏(政友)の反對演説あり鈴木萬次郎氏(同志)之を駁論して原案に贊成し採決の結果原案可決

三、造幣局設備擴張費に關する法律案 大西五一郎氏(中正)委員會の經過並に結果を報告し直ちに原案可決

此の時議長は緊急を要する政府提出案あり日程に上すべきや否やを諮り異議なく

一、大正三年臨時事件費支辨に關する法律案 武富藏相より簡單なる説明ありて委員附託

▲朝鮮森林特別會計法廢止案 藤澤參政官より營林廠の事業漸次其の緒に就きしを以て特別會計存置の要なしと説明し委員附託

▼興味ある議題 此の時福田又一氏(同志)の動議に依り日程を變更し

一、裁判所の設立及移轉に關する法律案

二、大正三年法律第九號中改正法律案

三、明治三十二年法律第七十號中改正法律案

右三案を一括して議題とするに決す即ち該案は長崎控訴院の移轉旭川地方裁判所の設置等にて與黨並に在野黨は地方の興廢に關するより重大問題と爲したる件にして頗る興味ある問題なり委員長鹿島秀麿氏(同志)委員會の經過を詳述し委員會に於ては原案中長崎控訴院を福岡に移轉の件を削除するに決し其の他は可決せりと報告し望月長夫氏(國民)委員會に於ける少數意見を述べ原案に贊成す

即ち野黨が政府案に對し贊成演説を爲すの奇觀を呈せり次で宮原幸太郎(中正)相島勘次郎(國民)小池仁郎(同志)の諸氏の質問に對し豊島政府委員の答辯あり議長は前案を二讀會に移す可きを宣し本田恒之氏(同志)委員長報告に贊成意見を述べ次いで森田茂氏(中正)地理經濟並に學問上より福岡は九州の中心なりとて原案に贊成し川原茂助氏(政友)は長崎控訴院移轉の不必要を論じ原案に反對し次で與村七郎氏(公友)の原案維持説あり此間熊本長崎選出代議士は案の前途を氣遣ひ議場を駈け廻りて誘説に務め尾崎法相に反感を懐ける議員は徒に反對説に拍手し議場の光景一變せり最後に齋藤龍夫氏(同志)は法相は福岡市に對し寄附金を要求せりと聞く果して然りや否やと問ひ尾崎法相登壇して然る事無しと答へ豊島政府委員は又原案維持に就き力説する所あり是に於て討論終結し記名投票を行ひたる結果投票總數三百〇二、内可とする者一六四、否とする者一三七即ち二十七票の差を以て委員長報告通り政府の原案を否決し移轉派の敗北に歸したり次いで東京砲兵工廠及び大阪砲兵工廠の据置運轉資本増加に關する法律案を議題とし委員長高橋久次郎氏(同志)委員會の經過及び結果を報告し池田宙治郎氏(國民)の反對あり討論を省略し原案可決次いで海軍調査及び研究機關に關する建議案 小西和氏(中正)提出の理由を説明し委員附託 米澤高等工業學校に關する建議案 竹村欽次郎氏(同志)提案理由を説明し即決し五時三十分散會したり(東京特電稿陸延着)

◎寺内總督動靜

寺内總督は二十五日夜下關着、春帆樓に一泊して歸任すべしと(東京特電)

◎駐劄軍經理官更迭

朝鮮駐劄軍經理部員 陸軍二等主計正 木村茂 免本職補第五師團經理部長

朝鮮駐劄軍經理部員 陸軍二等主計 香山剛毅 免本職補第一師團經理部員

朝鮮駐劄軍倉庫長 陸軍二等主計正 村井熊太 免本職補第十六師團經理部長

朝鮮駐劄軍經理部員 陸軍三等主計 大角忠文 免本職補第十七師團經理部員(東京特電)

歐洲大戰亂

▲獨逸ヒンデンブルグ軍敗戰す

ゼネヴア來電に曰く、ヒンデンブルグ軍は露軍の逆襲に遭ひて敗北し大砲及び軍需品を遺棄し退却せるが約一萬の獨軍はツクムまで逃去し露軍は進擊しつゝありイクスチュル附近に於ても激戰行はれたり(東京特電)

▲ヴアルナ方面露艦隊の活動

在ブカレスト「タイムス」特派員所報に曰くヴアルナ港の北方に約四十隻より成る露國艦隊は二十日カリアクル岬沖に現はれそれより南方ヴアルナ方面に進航せりと又公報に曰く猛烈なる砲擊聞え續いて五六の爆發聞こえたりされど濃霧の爲め艦隊の活動を目擊する能はざりき砲擊は二時間に亘りしが勃牙利陸上砲兵は重砲を以て之に應へたり艦隊は同日正午カリアクルに歸航せり(倫敦電報)

雜報

◎帝政促急運動

五國協同通告に對する支那の回答は依然曖昧不明瞭にて誠意の認むべきものなく返つて益々帝政實施準備を進捗し黎元洪、段祺瑞、馮國璋等の反對者に對し爵位制を設けて懐柔に努め其他利を以て反對者懐柔を計るも南方の形勢依然不穩の狀態を持續し容易に鎭靜の模樣なきを以て帝政派は速に袁氏を帝位に即かしめ以て帝政を實行せんと愈々焦り立ちつゝあり斯くして本問題は對外關係より內閣關係に移り帝制實行期の迫ると共に形勢次第に重大を加へ來れり(北京)

◎帝政反對氣勢增大

南方の形勢は刻々不穩を加へ帝制反對の氣勢大に高まらんとしつゝあるが上海の有力なる商人七千餘名も帝政反對の意見を表示し其決心固ゐる聞なり(上海)

◎京城大典記念植樹

京城府にては今回の御大典を記念し植樹を爲すの目的を以て其筋より龍山方面一帯の國有地の拂下を受けたるが目下は嚴寒のため植樹の好期にあらざれば年内は僅少の植樹を爲して式を擧げ明年春以降に於て大々的植樹の方針なりと

◎駐劄憲兵隊異動

十二月二十三日附を以て朝鮮駐劄憲兵隊將校に左記の如く異動發表さる

朝鮮駐劄憲兵隊長 憲兵大佐 隈部親信 咸興憲兵隊附を免じ京城憲兵隊附を命ず

同 憲兵中佐 瀧元二郎 京城憲兵隊附を免じ平壤憲兵隊附を命ず

同 憲兵中佐 大橋又三 平壤憲兵隊長を免じ金澤憲兵隊長に補す

金澤憲兵隊長 憲兵少佐 小河市之丞 免本職補朝鮮駐劄憲兵隊附 咸興憲兵隊附を命ず

善通寺憲兵隊長 憲兵少佐 鈴木武臣 任中佐免本職補善通寺憲兵隊長

朝鮮駐劄春川憲兵隊長 憲兵少佐 藤谷淺吉 免本職補朝鮮駐劄憲兵隊長

尚ほ此他に一二の進級者ありと

◎總督と馬關電報

寺内總督は二十三日午後馬關に到着せる旨同地より電報ありしも總督府には未だ何等の通牒なし、同地の電報は多分誤謬なる可しと

◎定例長官會議

二十四日は定例長官會議當日とて山縣政務總監以下各部長官局長は午前十時より總督府第二會議室に參集し通常政務に就き打合せの上正午散會したり

◎政務總監登廳

微恙の爲め引籠中なりし山縣政務總監は二十四日より登廳政務に鞅掌しつゝあり

◎商議解散役員會

京城日本人商業會議所は京城商業會議所の設立と同時に其存在の必要を認めざるに至りたるを以て二十五日午前十時より同會議所樓上に役員會を開き解散に關する打合せをなしたる上更に二十七日總會を開會する筈なるが會議所の解散には會員三分の二以上の同意を要することゝて年末多忙の折柄此點に就ては大に研究中也と

◎協贊會商議員會

京城協贊會にては二十七日午後一時より銀行集會所に於て商議員會を開會し協贊會解散並に四千圓の剩餘金處分問題に就き協議すべしと

◎協贊會慰勞宴

京城協贊會にては二十七日午後六時より花月樓に於て商議員四十九名を招待し慰勞宴を催すべしと

◎大阪より

▲戰局と印棉需給 印度棉の需給は古棉込みにて二百八九十萬俵にして右の中日本二百四十萬俵印度内地需要八九十萬俵歐洲及び支那へ五十萬俵なるが市場相場は常に世界的需要の米棉相場の下鞘に在るを常とすれ共來るべき戰局回轉如何によりては著しき値鞘を生じ印棉は茲にアニカレの二十五六圓を演出せずやと唱ふるものあり即ち獨墺國にして若し蘇士地峽を扼し東西の交通を遮斷するに於ては喜望峰回航による運賃暴騰して然らでだに現在之が爲め輸出僅々四十萬俵を越えざる歐洲輸出は一層打擊を受くると又支那に於ける國體變更後の動靜は棉花需要上に變更生ずる等に據りて考ふれば此懸案の決着を見ざる限りは印棉の昂騰は覺束なく却て前述の暴落を呈するにあらずやといへり

▲内地塗料奔騰 一般海運界の好調と共にペイン其他内地塗料の需要多く隨つて其價格は大に奔騰し目下各塗料を通じて百斤につき四十九圓に達し之を約二箇月以前に比すれば殆んど五圓の向上を示せり

▲神戸觀光團の奮發

今回南鮮地方を視察せる神戸紳士連は其視察狀況に鑑み渡邊常吉氏等の經營せる朝鮮耶蘇教團に對し金五千圓を寄附することゝし川西、瀧川、湯淺の三氏は金一千圓宛を出金し殘りの二千圓は其他の人々にて醵出することゝなりたれば不日發送するに至るべし亦旅順戰蹟保存費の中へ金千二百圓を醵出することゝし此の分は既に纏りたれば廿日同團幹事たりし武岡豊太氏より發送したり(大阪支局發)

南言北語

袁總統に對し外人であつて先頃第一に臣下の號を奉り御稱臣の發觀をしたと大分問題になつて居る有賀博士の闕恩表と云ふもの丶全文を送つて來た▲兎に角珍とするに足るのだらうからチョックラ此處で讀み上げて見やうイヤ書て見ると如件▲奏して恩施を叩頭し仰いで聖鑒を祈る外臣草莽の身を以て屢々恩遇を蒙り滿洲大役殆んど此し離し▲邇者外臣が居人の擧措を顧嫌するに因つて又昧指孫過謬の罪譜及び昧指背時小借各一件を頒賜せらる▲拜領の餘恐懼措く所を知らず伏して惟みるに中日の親善は兩國存亡の關する所にして世界平和の基礎たり▲外臣明りに思知を繰り員に法律顧問に備る進止の標的は恒に是に在り▲保國に於て國に臣子の分を確守す寶國の利は外臣の敢て爲す所に非ず▲然かも事法律に關し苟も國家を利し日本に害なく又中日兩國に有利なるを見れば必ずや進んで其法理を明にし其實行に易からしめん▲此故に因りて雖を犯し身を亡すも亦且惜まず區々の人言論を待つなし矣▲燕京の風土幸に外臣が病軀と相適し年齒も亦正に致力の期に當れり▲即ち其年末涉獵する東西學間の所得を貢ぎて新朝創業の助と爲さん▲學者此際に遇ひ此の名譽を享く實に大幸に屬す▲即ち此名譽も亦我陛下無形の賜なり誓つて畢生の力を致して陛下所命の法律に從事し以て恩遇の萬一に報せん▲外臣感慨忱謹具恩施を恭謝す伏して聖鑒を乞ふ▲之れが其の全文だ全く以て愈々御叮嚀千萬なもので袁氏もそつくり陛下になつて仕舞つた迄つては公爵でも頂戴する事だろう▲最う一人頌德表でも奉り相な外臣が北京に居る樣だ▲何んでも名はジョルダンとか云ふらしい此の人は袁氏を懐へ丸め込んだ積りであつたが支那引入問題で手を燒いた▲お蔭で此方も頗る大に甚だ以て迷惑をして居るが今度は外臣の筆法で大芝居でも打ち相だイヤなつかない事だ

家庭用としては至極便利な「國民日記」

近年、我が國の家庭にて益々日記をつけることの必要を認めらるゝやうになりましたのは、誠に結構な事と思ひます。これにつれて、記帳用の日記類も、年々發行高が殖えてまゐり、毎年内容を整備し、意匠を凝して種々様々の日記が出版せられます。

中でも、此の「國民日記」は、其の編纂法に餘程の苦心を加へ、家庭用としては最も便利重寶なものです。

即ち、主婦に必要な季節や、其の日其の日の惣菜料理とか、家庭救急療法などがあり、又婚禮の儀式、育兒の栞、交際の心得、さては衣服の事、花卉園藝の事など、凡そ家庭に於て、日常の用務を辨ずるに必要な事柄は、總て網羅してあります。

殊に毎日の欄下には世界偉人の年表、言行の大要、現代名士の誕生日、または世界重要事件の日時場所まで、參考として記してありますから、家庭教育の資料も十分に蒐集されて居ります。

尚は此の日記の特色として、大書すべきことは、毎月の初めに、廣業、清方、輝方、蕉園、百穗、耕花等現代十二畫伯のそれぞれ特色ある繪畫を挿入した事で、畫題に日本の代表的婦人を選んである事です。

そして其の裏面には其の月々の季節と式日、行事、節物を面白く掲載してありますから、趣味の點から云つても、之に超した日記はありません。

而も紙質の精良なこと、製本の堅牢なこと、裝幀の優美なことは、此日記の最大特色でございます。

定價金四拾五錢 郵税金八錢

取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

クリスマスが來ました
（上）調度の飾つた飾り木と（下）サンタクロースのお爺さん

●八阪丸獨逸潜航艇に撃沈せらる
船員の動作一絲紊るゝ無し

倫敦經由ポートサイド電報によれば日本汽船八阪丸は獨逸潜航艇の爲め水雷を發射せられ四十五分間にて沈沒せるが船員の動作は一糸紊るゝ事無く船客航員共全部救助せられたり是より先き東部地中海に於て獨墺何れかの潜航艇の爲め貞丸なる汽船撃沈せられたりとの巴里電報ありたるも斯る船名の汽船なく八阪丸は去る十二日ヂブラルタル海峽を通過せりとこといへば同船の遭難せりと云ふが眞實なるべし（紐育發電）

▲佛國砲艦に救はる

廿三日夜當地日本郵船會社支店着電（本社より）によれば廿二日ポートセットより左の電報ありたり、八阪丸は火曜日午後何等の警告も無く獨逸水雷艇の爲めに撃たれ四十九分間にて沈沒せり總ての船客乘組員は救助され同夜半佛國砲艦に救はれ廿二日ポートセットに上陸せり乘客乘組員全部に對し祝盃其の他準備せり乘客は皆船長並びに乘組員の熟練水火夫の規律に對し最上の賞賛の意を表せり猶ほ乘客の乘移り極て迅速に行はれ乘移り後完全なる秩序を保たれ居れり（門司支局電）

●宜しい、引受けた
男を見せる大和魂の發揮
歐洲戰は日本がさせてる＝大阪工廠多忙

大阪砲兵工廠にては露國より注文の兵器製造の爲め頗る多忙を極め殆んど徹宵の有樣なるが右に就き當局者は語つて曰く「現在大阪砲兵工廠で使用して居る職工は約二萬三千人で中一千二百人は女であるが尙ほ不足を感ずるので目下各方面に亙り

□職工の大募集　最中である、日露戰爭の當時は約二萬の職工を使用して世間の人を驚かしたが今回の忙がしさは日露戰爭當時以上で確かに當工廠開設以來未曾有である、最も夜を徹すると云つても各製造所とも全部ではないが火砲、彈丸、火具、藥莢の製造所は殆んど徹夜で鐵材、器材兩製造所並に作業課及び技術課は十二時まで夜業を繼續して居る、其の中最も忙がしいのは火砲、彈丸、藥莢の三箇所で之等の製造所には幾程澤山な職工があつても足りない、露國から注文の

□兵器の種類　等に就ては詳しくは明言するを得ないが野砲もあれば砲彈もある、また歩兵騎兵の使用する兵器もあるが野砲の如きは之まで大分澤山供給したので今新たに註文として製造して居るのは極く僅かである、併し砲彈に至つては其の製造に追はれ出來次第に輸送して居るのだが其れでも先方ではなか／＼足りないと見える、現在製造しつゝある兵器類は總て今夏註文を受けたものであるが、それでも今までに作り上げたのは三分の一位であるから其の殘りの全部を製造するには尙ほ五六箇月以上は充分にかゝるだらう先達て當工廠に於て

□飛行機射擊砲　を數門作製したが頗る好成績を見て居る此の射擊砲は始めて日本で作つたので餘り詳しく云ふと陸軍の機密を洩すから不可ないが、斯んな射擊砲が作製され結果を見て居るから諸君も安心して吳れ給へ、話は變るが青島攻圍戰に於ける獨逸の徵用自動車は全部我が戰利品となつた譯だが其の中の二十臺は當工廠で修繕し目下四五臺殘つて居るが之も不日竣成する筈である此の忙しさも暗りは、宜しい俺が引受けたと男を見せる大和魂の發揮で今度の戰は日本が後方勤務を引受けて遣らせてるやうなものさ」云々（大阪支局）

●三百圓の紙幣を擲いて
心中せんと相談中を捕はる

水戶市下市町八の七四五吳服商山中忠兵衞（三八）は一昨年頃から同町相模家の抱へ藝妓愛子事茨城縣眞壁郡川間村字與田二茂三郎の次女臼井こう（二二）と深間となり昨年七月中同人を八百五十圓にて落籍し妾宅を構へて面白可笑しく暮し居たるが其後親の迫害を受けて居堪まらずこうと本年三月頃より相州小田原町の扇家へ棲み込み菊子と名乘り相變らず藝妓稼業を爲し居たるが一方忠兵衞はこうの事を忘れ兼ね本月十七日東京に仕入れに行くと稱し五百圓を懷中し直に小田原に赴きこうを連れ出して散々遊び廻り十九日夜兩人手を携へて上京し同夜十時頃泉岳寺境內にて殘金三百圓餘の紙幣を賽錢の代りに取き藥を仰いで心中せんと相談中高輪署の手に取押へられ目下鄕里へ照會中（東京）

●怨みは深し和田岬
漁夫の網に掛つた可憐の初子

二十四日朝堺市の漁夫が同地大濱燈臺附近に出漁中同燈臺を距る西南約二里の沖合にて服裝卑しからざる二才前後の女兒の屍體が網に掛り來れるより大に驚き直ちに引返して其筋に屆け出でたるが取調べの結果右は淡路の豪家川上四九郎に緣づき最近離別されたるを苦にし去る二十日神戶和田岬沖にて汽船豐浦丸より投身自殺を圖れる土居愛子（三二）の一子はつ子なる事判明せり（大阪特電）

●防彈具發明家訴らる
株式會社準備金一萬圓の問題

東京小石川區武島町二十一番地大日本武德會支部幹事千葉周作（五五）は曾て日清戰役當時防彈具なる物を發明し其後漸次改良を加へ先頃完成したれば同區大塚坂下町五十五番地鍛冶職石澤惣吉（四八）と相談の上砲兵工廠に於て實彈の試驗を爲し結果よきより同區大塚窪町二番地木村幸道（四五）を介して目下戰亂中なる各國大公使館より注文を受けんとせしも會社組織ならでは面白からずとの事にて諸所奔走の末下澁谷町千八百番地猿口晉藏（五一）に相談の上十五萬圓の株式會社を設立せんと企て同人より準備金として一萬圓を受取りたる譏なるより晉藏は周作を相手取り告訴を提起したり（東京）

●短刀にて男女共蟲の息
新町遊廓廿四日朝の合意情死

二十四日午前七時半頃京城新町遊廓清月樓安川方にて合意情死ありたり同日午前七時四十分頃同樓仲居渡邊ため（二三）がふと同家の裏座敷同樓の

▲抱娼妓若松の室　を覗き見たるに男女兩名共腥き血に染み打倒れ蟲の息にて苦悶し居るを發見し魂も飛ばん許りに仰天し樓中上を下への大騷ぎとなり一方直ちに新町交番に急報したるより本町署より警官醫師現場に出張し檢視の上取敢へず應急手當を施したるが本籍[illegible]生れの同樓抱へ娼妓若松事[illegible]（二一）男は本籍大阪市西區北堀江通當時京城府明治町一丁目居住紙商人[illegible]なり兩人は昨年來

▲馴染みゐたりし　ものにて男は[illegible]若松が許に通ひ[illegible]十二日より流連し二十三日[illegible]より見れば二十三日迄には情死の決心もなき樣なりしが二十四日朝に至り決心したるものらしく午前七時半頃若松の居室にて長さ八寸五分位の白鞘の鋭利なる短刀を逆手に持ちて先づ男が若松の前頸部に深さ氣管に達する長さ一寸の深傷を初め前頸の兩方に各一箇所宛乳房の下に各一箇所左腕膊部に一箇所都合六箇所の重輕傷を與へ女は死亡せしものと合點し次は

▲我と我頸部に女　と同樣三箇所腹部に一箇所左右腕膊部に一箇所都合六箇所を突刺し鮮血に染りて打倒れたるも絕命するに至らざりしものなり急報に依り出張したる警察醫は兩名の深傷に對し應急手當を加へしが兩名共言語を發する能はず頗る危篤の有樣なるが女は新町病院に男は池上病院に擔ぎ込み加療中なるも兩人は昨年來關係し居り詳細を知るを得ざるも現場其他に遺書なき爲め詳細は不明なるが男は紙商用の爲め入京し或は大阪に歸る等流連し深き仲となり居れることは事實にて

▲男の袂の中より　先月初め若松より大阪なる男の許に[illegible]何時になりても旅費を送金するに依り入京し吳れ十五日迄に入京せざれば自殺する又一度言ひ交した仲なれば今はかゝる商賣なれども元は士族の娘故見棄てずに云々などの文句を認めたるを發見したりと兎に角歲末の工面に窮しての事となる可し

●邦人聯隊
加奈陀にて組織

オツタワ來電によれば加奈陀官憲はブリチツシユコロンビヤ州に住する日本人より歐洲戰亂に投ぜしめんが爲め歸化日本人の聯隊を編成せんことを申込めりと（東京特電）

●屍體發見
大阪慘事後報

二十三日午前大阪北區此花町潤水湖吉方より出火三名燒死せる事は既電の如くなるが二十四日に至り尙ほ一名の燒死せる事を發見し都合四名の燒死者を出すに至れり原因は附近を徘徊せし乞丐の焚火の失火せるものなり（大阪特電）

●梅谷斷髪
鋏の役は瓜生大將

引退せる梅ケ谷は廿四日午後四時両國美術俱樂部にて斷髪式を行ひ梅ケ谷會員全部及最負客悉く來會し同鄕者たる瓜生海軍大將鋏を取つて髻を斬り梅ケ谷が土俵入に用ゐし綱は龜井戶天神へ髻の毛は鄕里なる白山神社に納めたり

●賄賂で法は狂げられぬ
感心な巡査補

仁川署管內富川郡龍遊面大舞衣島居住の[illegible]敬烈（四三）張永玉（三三）崔時化（四〇）尹致芳（三九）鄭忠運（三三）車斗玉（三六）の六名が去る十八日午後十一時三十分頃前記[illegible]方に於いて金錢を賭し博奕開帳中を警邏中の巡查補朱元成金舜浩の兩名が現認して一同逮捕し仁川署に送致すべく翌朝便船出帆まで孤島にて逃走の恐れなきを以て一時自宅に引取らしめ置きたるに同夜前記徒等より二三圓を拵へ前記兩巡查補に贈賄したるより兩巡査補は直ちに車文玉（三六）が前記金十三圓の出金せしめ車文玉と共に六名を賭博及贈賄罪として告發せり

●大邱府廳の水道工事場燒失

廿三日午後九時頃大邱府廳東側にある水道工事鍛冶場より出火し見る／＼四方に燃え擴がりたるも逸早く消防、憲兵等驅付け幸ひ一棟を燒失せしのみ大事に至らずして九時半頃鎭火せしが其出火原因は不明なるも今水道係辻本德三郎氏の語る所によれば當日六時頃特に火氣の有無に注意し辻本氏自身鍛冶工場の周圍を檢閱し歸宅せし位にて注意に注意を加へたりしも遂にかゝる仕末に立至りしなりと大邱警察署にて目下原因調査中なり（大邱支局）

●覆面三人強盜
資産家を襲ふ

去る十五日の深夜二時卅分慶尙北道尙州郡洛東面升谷里の兩班にて郡內屈指の資産家たる趙永九方に押入りたる三人組の強盜あり何れも鮮服を着し一人は戶外に見張番を爲し二人は主人の寢室を襲ひて棍棒を突付け遂に內房に入りて簞笥の裡なる現金二十九圓餘とチヨツキ一枚羅紗鞄一個を強奪し去りたるが憲兵隊にては逸さず犯人搜索中なり（尙州支局）

●今宵の降誕祭

南米倉町京城基督敎會にては廿四日午後六時よりクリスマス祝會を開催し山本牧師の式辭に次で日曜學校の祝會を催し各可愛らしき少年少女の唱歌お話等も試みらるべく猶ほ尺八合奏、獨唱、活人畫等の面白き餘興に次で贈物及び茶菓の饗應あり尙ほ明治町佛蘭西敎會にては二十四日午後十二時より莊嚴なる降誕祭を執行す可しと

●時計を盜で遊興　仁川府

宮町香樂手黃白洙（二〇）は去る二十三日午後十二時頃敷島遊廓構內に於て汽船南陽丸火夫金龍鳳が懷中より時計を取出し時間を見ゐたるを横合から一寸見せて吳れとて引取り其儘一目散に逃げ去り其足にて新敷島大黑樓に揚り二圓餘の遊興をなし前記の銀側懷中時計を遊興費の代りに置き居たるを花町交番所の森巡査に發見逮捕さる

●花園町に猩紅熱　京城花

園町百二十番地坂本あさ（[illegible]）は二十日發病二十四日午後一時檢診の結果猩紅熱と判明したり

●鐵道局の忘年會　鐵道局

長官大屋權平氏は同局高等官及び京城記者團を招待し二十四日午後六時より花月に於て忘年會を開催

▲暴風警報（十二月[illegible]仁川測候所發）

▲警戒風[illegible]かるべし▲低氣壓位置長春▲同示度七百五十四粍▲進行方向東▲警戒區域中部

◎當籤廣告

兼て金牌受領弊社創業一週年記念景品附滿喫綿大賣出中の處期間滿了に付十三日其筋の官憲及新聞記者立會の上抽籤執行左記番號の通り當籤仕候間各御買求の商店に於て景品引換致すべく候に付乍御足勞何卒御引換被下度候也

大正四年十二月廿四日

京城府[illegible]町二丁目

朝鮮製綿株式會社　電話（長）一六五番

景品引換期間　自大正四年十二月廿四日　至大正五年一月廿日

但右期日經過後は無効とす

當籤番號

壹等　五百貳拾九番

貳等　五百貳拾六番　二千百九十二番　千七百八拾六番　千參百五拾四番

參等

四等

五七九　一八三六　五八二　一二五二　一九二二　七九

八九三　二一五〇　七四九　一四二〇　二〇九〇　二四六

一二〇七　二四六四　九一七　一五八七　二三五八　四一四

一五二一　二六四　一〇八四　一七五五　二四二五

五等

貳壹
四參八貳六
六九〇壹參
貳八五壹四

貳壹
五四八參七
四七八〇壹
八五九貳五

壹
九參七
四七八九
五貳六九

貳壹
壹〇四八
貳五七八
九六〇參

貳壹
貳壹五九
壹四五六
參〇參七

貳壹
貳貳六〇
九貳參五
六四七壹

貳壹
參參七壹
八〇貳參
〇八壹四

六等

參壹四參壹九七五四貳〇八六五參
壹四七〇貳五七九貳四七九壹四六
六〇八貳六〇四八貳六〇四八貳七

參壹五參壹九七六四貳〇九七五參
四六〇貳五七九貳四七九貳四六九
壹五參七壹五九四八貳六〇四八貳

壹　參壹〇八六四貳壹九七五四
九壹五七〇貳四七九貳四六九壹
壹五參七壹五九參七壹五九參七

貳　參貳〇八六四參壹九七六四
壹四七〇貳五七九貳四七九壹四
六〇八貳六〇四八貳六〇四八貳

貳　四貳〇八六五參壹九八六四
四六〇貳五七九貳四七九壹四六
壹五參七壹五九參七壹五九參七

貳　四貳〇九七五參壹〇八六四
六九貳五七〇貳四七九貳四六九
六〇八貳六〇四八貳六〇四八貳

貳壹四貳壹九七五參貳〇八六五
九壹五七〇貳四七九貳四六九壹
壹五參七壹五九參七壹五九參七

七等

四參貳貳壹〇九八七六五五四參貳貳壹〇九八七七六五四參貳壹
四六八九〇壹貳四五六七八〇壹參四六七八九〇貳參四五六八九
貳八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇參

四參參貳壹〇九八七六六五四參貳壹〇九八八七六五四參貳壹
五八九〇壹貳四五六七八〇壹貳參四六七八九〇貳參四五六八九〇
五壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五

四四參貳壹〇九八七七六五四參貳壹〇九九八七六五四參貳壹
六九〇壹貳四五六七八〇壹參五六七八九壹貳參四五七八九〇壹
七參五七九壹參五七九壹參五七〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八

五四參貳壹〇九八八七六五四參貳壹〇〇九八七六五四參貳壹
八〇壹參四五六七九〇壹貳參五六七八九壹貳參四五七八九〇壹參
〇六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇

四參貳壹〇九九八七六五四參貳壹〇九八七六五四四參貳壹
參四五六七九〇壹貳參五六七八九壹貳參四五七八九〇壹參四
五壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參

四參貳壹〇〇九八七六五四參貳壹〇九八七六五五四參貳壹
壹四五六七九〇壹貳參五六七八九壹貳參四五七八九〇壹參四五
七參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五七九壹參五

四參貳壹〇九八七六五四四參貳壹〇九八七六六五四參貳壹
參五六八九〇壹貳四五六七八〇壹貳參四六七八九〇貳參四五六
〇六八〇參四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八〇貳四六八

成行競賣廣告

新年用向書畫、屛風、重箱、會席膳
吸物椀、其他種々骨董品類

右今回某氏より成行値段を以て賣却方の依賴を受け候に付來る二十六日正午より仁川濱町圍碁俱樂部樓上に於て全部成行競賣に付し申候間陸續御來臨の上御買上被下度候

備物品は二十五日中に全部陳列致置候間御一覧被下度候

場所　仁川濱町　圍碁俱樂部

會主　莊野愛古堂

演藝案內

◎有樂館　本町一丁目
一母の罪[illegible]
宇都宮釣天井長講二席（京山福壽）橋傳助、[illegible]
[illegible]死[illegible]一品[illegible]大活劇　全五卷

◎壽座　本町[illegible]　電話五七八
毎日午後六時より開演

◎御成座　電話二一九一

天氣　曇一時晴　十二月廿五日

日出　七時四十六分　日沒　五時二十一分

仁川滿潮・干潮　[illegible]

奉天重要輸出入品

十二月上旬の輸出入

▲重要輸入品 ▲綿絲布 內地相場は米棉の高報を傳へ六日迄好調なりしが江南革命黨勃發の報あり商勢に一變相場下落せしが其後革命黨反亂騷ぎも須臾にして鎭壓せられたるを以て相場は八日より舊態に復し來りしが當地亦內地同樣其影響を蒙りたるは亦に其所なるも既に前旬々報に報じたるが如く前旬末より本旬上に掛て取引兎角澁り勝ちにて內地の多少活氣立ちたりしに拘はらず當地之に副はずして逆鞘の狀態は幾分か鞘寄せて其開き減じたりとは謂へ依然として逆鞘を續け來りたる有樣なる上にも上述の如き革命騷ぎの爲め取引警戒せらるゝに至り實行鈍かりき其行先き如何に就ても今の處氣迷の姿にて一寸見當立ち難し本旬輸入綿絲三百四梱綿布類六百九十三梱にして前旬に比し前者百五梱を後者二百七梱を增せり▲麥粉 實行前旬同樣相場亦保合ひたり而して鐵嶺長春粉の入荷尠なく露粉は殆んど皆無にして上海粉多量を占む本旬輸入數量二萬四千七百三十四袋の中其過半數即ち一萬三千八百六袋は上海粉なりしが種類別にすれば十四種類もありて多少纏まりたるものとしては紅寶星三千二十一袋福壽二千六百二十三袋紅牛二千十六袋紅鷹二千八百十袋位他は概して小量宛に過ぎず▲砂糖 大體の上より謂へば前旬と別に變りなき商狀にして兎角取引行はれたるが日本糖は內地相場强含みなりしに當地は却て値段を引下げ太古糖亦約洋一元方の値下を發表し本旬輸入紅白取交せ日本糖九百俵太古糖七百俵强にして近來に於ける大輸入なりしも昨今に至り輸入絶無となれり而して是等輸入糖は結氷を利用しての田舍向品大部分を占め斯かる多量の數字を見るに至りしなり之れを以て押せば早晩斯界は活況を呈するを得ん▲燐寸 前述紙類と同しく原料不足にて相場愈々高く相當の實行を有す本旬輸入四百七十九函前旬より百六十六俵を減せり

▲重要輸出品 ▲大豆 出廻旺盛なる割合に輸出振はずして三車即ち十四萬八千三十二斤ありしのみにて却て前旬の三分の一にだも充たず然るに出廻は六千三百石の多量に上りて前旬より一千八百餘石を增せる有樣なり相場は略前旬同樣にして騰落なく奉天一石銀十元三十仙より十元九十仙を唱へ移出は此姿にして手形か▲高粱 本旬輸出二十萬一千二百六十一斤にして前旬より約二十七萬七千五百四十斤多く出廻亦本旬四千二百五十支石にして前旬に比し九百支石を增せり而して相場は保合ひの姿にして奉天一石銀十元五十仙より十二元の間を往來せり▲小米 輸出々廻共に鈍く輸出漸く四萬八千七百九十七斤にして前旬の一割半に達せず出廻は前旬に比し五十支石多くして四百十支石ありたるが値段は保合ひにして奉天一石建洋十七元七十仙より十八元を唱ふといふ▲豆粕 本旬始めて六車即ち五千九十六枚の輸出あり本年度に入りての輸出は之を以て嚆矢とす其の出廻は本旬は七千枚にして前旬は九百三十枚にして前旬より百三十枚を減少せり本旬に於ける相場は一枚に付洋一元三十三仙より一元三十五仙にして前旬と變りなし（奉天）

大邱經濟界活調

商界漸く愁眉を開き 活調の裡に越年せん

殆んど不況の底に沈み府民口を開けば不景氣を呟きつゝありしが近來著しく經濟界の調律順當となりたる趣あり今其原因の一二を擧れば重に輸移入方面に於て樂觀すべき兆候あり從來田中善一氏が釜山に支店を設け盛に大邱地方と連絡を付け居りしものなれど今は同店閉鎖し內地との商關係が直接大邱商人の手に移りし傾きあり又松前本店も釜山に根據を据ゑ大邱を自家の商的勢力範圍に包擁しをりしものが今は大邱に本店を移して大邱自身が主動的に商權を握らんとしつゝあり又從來在邱支那人は支那より仁川經由の移入品を仕入たるものなるが歐洲戰亂以來在邱支那人は直接大邱商人の手を經て需要品を購入し加之ならず昨年に比し米價の騰貴及び不景氣に馴れたる社會心理等の關係により今は漸く愁眉を開き本年は經濟界順調裡に越年せんとする好兆ある等なり

パン、干菓子、洋菓子など取揃へ歲暮の御用待つ 木村屋 京城明治町 電話二八〇番

木浦米の聲價

木浦米の改良移出米檢査開始以來著しく自然阪神地方に於て聲價を發揚し來れるは既報せしが大阪に於ける群山米に及ばざるも當檢査所より神戶米穀取引所に對し照會したる處に依れば檢査施行前一箇月に比し實に九十錢の昂騰を示し釜山及び群山が何れも五十錢乃至七十錢の騰貴なるに對し仁川と共に一頭地を拔き上格に於ては群山と同値なれども下格に於ては群山の十一圓五十錢に對し十一圓五十五錢即ち五錢方の上値に位し遂に群山米を拔くに至れり檢査開始以來僅に一箇月なるに此の如き實効を擧げつゝあるは誠に全南の爲め好兆ある等なり

發展せる鳥致院

○一寒村を綴じて今や忠淸南北兩道の關門たらしめ遠く京城釜山を左右に控へ淸州公州を前後に側し物資集散の門戶を把持し內地人移住者の增加は年と與に加はり商に工に今や大都市を現出せんとし忠北忠南の沃野より產出する數十萬の米穀は此地に蝟集し內地は勿論遠く元山方面に迄伸張し諸雜貨類は公州淸州鎭安槐山陰城鎭川忠州に及び江原道寧越等の主要地に對する需用品の移入せられ斯くて鳥致院に於ける年中取引高は三十萬圓を超え市場亦雜貨其他にて三百萬圓に垂んとし累年異常に進展しつゝあり

◎同地の經濟狀態は交通機關の齎らせし結果とは言へ又以て鳥致院商業組合員等の努力の賜と云ふべし、商業組合は三年二月の創立に係り吉成勞之助氏白井築介氏中野大五郞氏觀水氏助役氏等の幹部となり共同一致して相互の利益を增進し商業の發達を企圖し私情を去りて團結せし結果如此の異常の發達を見るに至れり

○鳥致院の農業は未だ其域に達せざるも八千戶五萬の農民を有し兼ねて田七千町步畑九百町步畜牛二千其の他の家畜合して七千を超ゆ果樹栽培も亦盛にして弘益殖產會社の果樹園四十町步此の年產額實に苹果一萬五千斤梨七十貫葡萄三千貫內地滿洲露領南滿に販路を擴張しつゝあり其他岩田果樹園、興農園、白井果樹園等の發展し來るあり鳥致院の果樹栽培の將來誠に有望なるを知るべし

◎特に特殊事業として年額五萬石二百萬圓の貿易に鳥致院の米界の金融を左右する鳥致院精米所の活躍は蓋し鳥致院の誇たるべく其他金融機關としては金融組合事業の殖產銀行の支店も[illegible]萬圓の融通を爲しつゝあり[illegible]

穀物廻著數

木浦 木浦商業會議所調査に依れば本年一月以降十一月末の廻著數累計は二十五萬九千九百十六石にして之に十二月中の廻著高を見込むときは優に三十萬石に達せんとする好況に在り其種類は籾の二十二萬二千三百九十九石を最多とし白米一萬六百七十石以下雜穀にして斯の如く盛況を見るは特殊の源因あるにあらず唯木浦商買の活動と玄米檢査實施に連れ木浦米の聲價益々發揚されんとの情況に在るを以てなり今後は更に漸次廻著數を增加し五十萬石即ち一百萬叺の聲を聞くも茲一兩年の中ならん

年末の贈答品には 實用向きの ちゝぶ銘仙 珍柄豐富 本店 京城本町二丁目 ちゝぶや 電話八九〇番

群山新商議

群山商業會議所に於ては既報せる如く新令に據る商業會議所の設立準備に著手し現會議員阪上貞信氏の手に依り新定款の起草中なりしが數日前既に脫稿し磯部會頭に廻附しありて

皮膚科 徽毒科 佐藤醫院 皮膚病 徽毒病 淋病 生殖器病 機能障礙 入院隨意（診察夜九時迄） 日曜祭日午後二時迄 京城明治町二丁目（角） 電話一七三一番

船腹不足の聲

近日議員總員の決議に附し發起人全部の調印を求め遲くも一月中旬迄には當局に認可申請の手續を爲すべし棉花及び米穀移出の旺盛に伴ひ船腹不足の聲甚だしき由は既報せしが其

葉貴の二期戰

大邱を中心とせる葉貴第一期戰は已に終結を告ぐると共に上級及び下級品は大部分の商談纏まり頃日來双方共睨み合ひ乍ら警戒しつゝありしが年末も漸く近づかんとし決濟資金の關係上從來腰强なりし耕作者側も今は多少氣迷ひの姿にて

後時々臨時船の回港を見るも到底停滯せる現荷を悉く搭載するに至らず殊に操棉に至りては一時積取るも直に製品出來する爲め荷主を滿足せしむる事能はず現に四千三百餘俵の停滯あり爲めに三棉業會社にては工場の作業に手加減を加へ居る次第なり

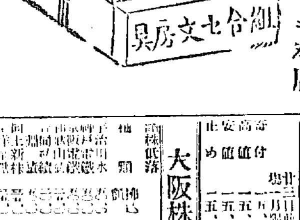
產業界の爲め喜ぶべく當業者は益々奮闘努力し居れり

變調もあらざる可く結局耕作者側の氣崩に終らんか

蓋し此の時あり此の如くにして第二期戰はさして花々しき第二期戰はさして花々しき變調もあらざる可く又製造家側にては第一期戰に於て大部分製造準備を了し今ぞ買急ぐの必要なき立場にあれば近く開かる可き第二期戰に多少狼狽の氣味あり製造家は充分なる强味を以て第二期の戰闘準備をなしつゝあり

◎月世界新製品 大邱府大石商會にては新月世界を精選し特種の名葉を加へ一袋二十本入四錢にて發賣しけるが品質體裁共優に官煙朝日を凌駕し年末年始の贈答品には至極適當也

◎[illegible]閣としては金融組合事業の殖產銀行支店の[illegible]



京城本町 シノサキ本店
京城本町 シノサキ支店

商況

東京債券現物特電

	十三日出來値段	前日との比較
東洋拓殖	六九、〇〇	
南滿鐵道	一六三、〇〇	
朝鮮銀行	一四三、〇〇	

東京公債直取引特電

	十三日出來値段	前日との比較
四分利	九五、五〇	
五分利	九三、六〇	

深川在米特電

	十三日現在高	
鮮米	八一、三九六	
內地米	六二、三三三	
外米	一七九、三六一	

東京期米特電

	廿三日前場	後場
付	一五、四八	
高値	一五、三七	
安値	一五、四一	

大阪株式特電

銘柄	前場	後場
[illegible]	[illegible]	[illegible]

大阪三品特電

[illegible]	[illegible]	[illegible]

大阪期米特電

	二十四日前場	
一月限	一四、〇六	
二月限	一八、六〇	
三月限	四、四〇	

下關期米特電

先限四千四百五十石 一月中先兩限共停止解となれり 朝鮮物產特電

雜報

製粉春高見越

製粉市況は一時稍軟弱の氣味ありしも小麥原料の各社の態度依然として手堅く且つ原料小麥は八升七合位より入れ居るゝより各社の採算上七升五合も買出しては原料の高値に加へ前記の如く一圓八十錢位を主張し居れり

一部思惑筋の利抜等

五七錢方は當然下値に買はれ居り其の[illegible]

上値たるは操棉に鑑み然からざる可し

歲末市況は幾分

染料依然强硬

染料の輸出甚だ多く エキス類

洋釘更に空前

金物類の暴騰率

一樽二十八圓 細物一躍五圓三時 牛以上の太物は三圓 以下の 高値上 需要の激減は觸 暴騰の 平均値段六月中 更に新活動の爾現

正米底强し

籾は出廻薄に 不探算から約十錢方を引 弛

下關相場

各地商況

○朝鮮一等白米（當用）十四圓三十錢 ○同二等白米（當用）十三圓八十錢 ○同 十二圓九十錢 ○優良大豆 九圓四十錢 ○同極上品 九圓五十錢 ○元山大豆 三圓八十五錢 ○元山夏干か上 三圓三十錢 ○同純品 三圓十錢

○木浦（二十三日の穀物）

○釜山（廿三日の穀物）

京城正米

十錢内外の引弛 籾高と賣物薄

仁川期米

二十四日前場 十二錢安

市場零聞

南大門の廻米

仁川現物市場

仁川米豆取引所

廿四日の二月限

平均値段	
寄付	十圓九十四錢
高値	十圓九十八錢
安値	十圓九十九錢
引值	十圓九十四錢
出來高	六千四百石

前場の商戰

前場下げ澁る

九錢を跳ね返し

紡績株

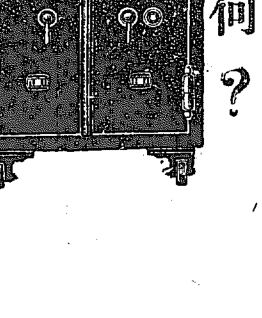
郵船株

北濱だより

▲結局保合 ▲春相場如何 ▲日前場限りに大納會 ▲味は二十五 相場は無趣 ▲標準米調製中 ▲此買人氣に向 ▲大に賣浴 ▲買人氣に大に買試み ▲動を惹起 大激戰大變

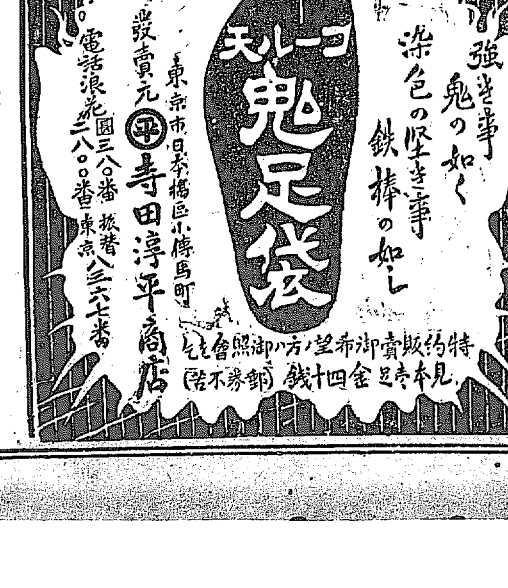
謝近火御見舞 東洋拓殖會社大邱出張所長 安東義喬 十二月廿四日

謝近火御見舞 昨夜近火の際は早速御馳付被下難有御禮申上候混雜中御尊名御伺洩れも有之事と存じ乍略儀紙上を以て御禮申上候 十二月廿四日 大邱電氣株式會社



損害―幾何？ 盜難 火災 金庫の代價は損害の何百分の一にも當りません 東京竹內製金庫 朝鮮特約店 熊平支店 京城本町二丁目 電話六二四番 振替京城二三番

時下嚴寒の砌り御得意樣各位益々御淸榮の段大慶至極に奉存候陳者弊亭儀各位の御引立を蒙り日々隆盛に赴き候段奉深謝候就ては此際聊か平素の御厚恩に報ゆる爲め特に一層の大勉强仕り忘年會、新年宴會及お正月重詰其他御料理一切如何程にても御需めに應ず可く候間些少に不拘御用命仰せ付けられ度此段謹んで御願申上候 京城南山町一丁目（電話二三五番） 松葉亭



內地產 朝鮮產 桑苗販賣 京釜線大田驛前 東洋蠶業株式會社出張所 大田局電話百〇七番 電略（ト） 本社は毎年朝鮮各道郡廳に對し尤も多數納入の經驗を有せり 御一報次第苗木見本及價格見積書を至急呈仕候

越後大評定

第八十三席　早川貞水口演

毒試し

一同、濱野玄祐の恐ろしき最期を見て唯『アッ』と云つて顔見合はした時に美作『各位、騒ぐに及ばぬ、彼の庭前の檜の木の下に、之を埋め下さるやう。○『ハ、ハアー』美『彼が再三の辭退に及び、毒藥調合仕られぬと云ふのは、即ち予の望みを概略覺り若殿下野守を殺すのを憚つてのこと、縱しや今調合いたしたと云ふものゝ、進退ならざりしに依ろ、必ず後日の障りと存じ、偶然なれども彼の毒藥を以て試みたので御坐る、是ならば大丈夫の効能あり、イザと云ふ時には吾が望みを遂ずるは目の前。○『ハア流石は御家老の御計らひ、吾々共の遠く及ばざる所、恐れ入つたる儀』と是れから庭の木の根方を掘り人知れざるやうに濱野玄祐の屍骸を埋めました、併しながら天は昭々として照り給ふ、何ぞ此惡事の顯くことのあるべき。後水戸の御家來が越後家へ隠密に入り、此檜の木の根方から濱野玄祐の骨が手に入り、之が證據となつて惡人が押へられる、即ち天罰を被りまするは後譚の事で御坐いますが、サア濱野の宅に於ては、主人が戻らぬから、心配をして尋ねたが御家老の御屋敷で、御酒を戴いて歸つたと云ふ、何うも是には不思議に思ひまして、彼方此方を聴合せたが何處に往つたか更に行方か知れないそれでは神隠しにでも遭つたのか知らぬなどと云つて、其後は出た日を命日に、弔ひを致し居りました、と云ふ所が延保二年三月十五日、春の櫻は今を盛りと満開、いと心地よき時節となりましたから、若殿下野守殿、櫻の馬場と云ふ所に於て御弓の稽古を遊ばす、美作傳大六を伴て拝見の儀を願ひ傍に控へ居る。下野守様御近侍置いて、頻りに御弓を引いて居らせられる、向うの方で『中リーッ』と云ふ聲を揚げる　美『恐れながら近頃御上達あらせられまして御立派な射前で御坐いまする　下『イヤ美作……』大六も少と射ては如何か　美『左様で御坐いまする、倅大六甚だ未熟に致して、若殿様の御側にも及ばず　下『イヤ然うではあるまい、大六其方も弓術を致せ　大『然らば私も……』　下『如何ぢや、其身は此七分五厘が引けるか　大『ハイ』　下『あの三寸の的を射て見よ　大『ハイ』大六この時七分五厘の弓に箭を番へたることにて、滿月の如く、引絞ります、其射前を若殿御覧あそばし　下『ア、なか〳〵感心なものぢや、アー良い射前ぢや』狙ひを定めてビユーツ、切つて放つと、ビシツ、三寸を射抜きました、下野守手を拍つて　下『偉いッ大六、天晴　大『恐れ入りました偶、倖れ中りと存じます　下『イヤ〳〵大した手並ちや』すると後の方に西尾庄作と云ふ庄左衛門の倅の十八歳になるのが、御印籠を持つて控へて居る、と云ふのは若殿様御持病があるから、御醫者濱野玄祐の調合した照赤の御丸薬を、其印籠の中に入れて、寸時も放さず持つて居るので御坐います、其美事な印籠を見て美作が　美『庄作、一寸』　庄『ハイ』　美『大層美事な品である　庄『ハイ若殿様の御印籠で御坐いまして、此の中には御持薬が入つて居ります』　美『ハア左様か、ちよつと見せえ』　庄『ハイ……』

十二月廿六日　九星　西十一月廿日　辛卯　本命一白　北平　赤口

▲一白●●　[illegible]　▲二黒●●　[illegible]　▲三碧●●　[illegible]　▲四緑●●　[illegible]　▲五黄●●　[illegible]　▲六白●●　[illegible]　▲七赤●●　[illegible]　▲八白●●　[illegible]　▲九紫●●　[illegible]

本場　秩父名仙　銘仙　半衿
京城本町一丁目　丸木屋　電話一三四二番

私儀鑛業家諸氏の便宜を圖らんか爲め左記の所に於て鑛山賣買仲介業に從事す
京城府安國洞一五三番地　大平洋服店内鑛山賣買仲介所
主務　申厚永
取次電話三三六四番

實用的な御贈答品は
高野豆腐に限る
百切以上二百切入(紙函)
五百切入以上千切入(板函)
其他御望みに應じ申候
仁川花町二丁目
高野豆腐製造發賣元　岡洋行

廣告
うなぎ味噌漬
大好評淡江特産進物用最適品
燒ハゼ　生鰻。　大生かき　中生かき　くらげ
右御小賣共精々大勉強販賣仕候間多少に不拘御用命の程希上候
京城旭町二丁目(不知火旅館角)
うなき味噌漬、燒ハゼ
發賣元　三友商店（電話一四八〇番）
大阪賣

美人
春夜見ぬかね珍説　衷情無限内容云はぬが花！三錢切手十三錢送れ
大阪市北區東堀川町九　大正堂

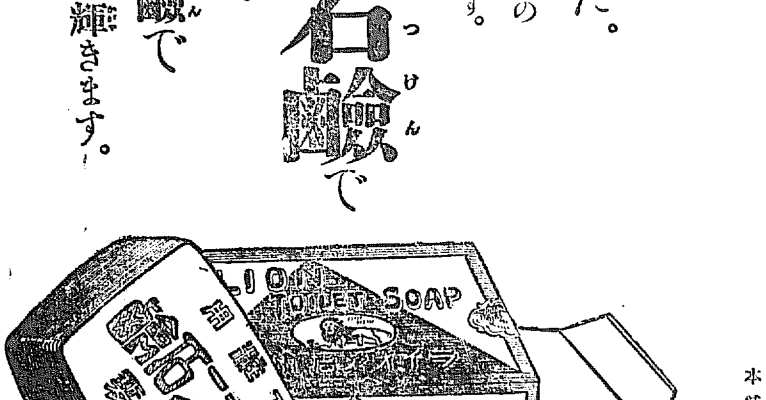
りん病
消渇で困る方多年の慢性も自宅で人知れず秘密に治るフシギの妙藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ其妙藥と自宅療法の詳細を報ず
名古屋市南かじや町　武藤亀吉

近火御見舞御禮申上候
十二月廿四日
大邱東雲町　寶城醬油釀造場

謝近火御見舞
昨夜近火の際は早速御馳付被下難有御禮申上候混雑中御尊名伺洩れも有之事と存じ年寄儀紙上を以て御禮申上候
十二月廿四日
大邱東雲町　竹崎六次郎
前原重晴
植松正一

朝鮮總督府裁判所書記　早川保次君編著
再版　改訂增補
朝鮮不動産登記　朝鮮商業登記　申請書式並心得
▲紙數四百八十頁、代價金壹圓、郵税金拾錢
本書中不動産登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動産登記法に依る申請書式、官公署の登記に關する囑記書式等併て百弐拾餘件並に印鑑屆、印鑑證明願、改印屆、土地變更事項に關する證明申請(京城府所定)委任狀、契約書、保證書、建物圖面及共同擔保目錄雛形等を掲て加之官通牒、登記に關する決議、實例等苟も申請人の參考と爲るべきものは擧て各書式の末尾に之を掲記し以て疑默を釋明し又商業登記の部には未成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等併て五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得へき程度に之を編纂せり土地所有者、不動産上權利者、會社、代書者必備の參考書たり
發行所　京城大平通一丁目　振替口座京城三〇〇番　京城日報社代理部

化粧用
ライオン石鹸で
お寒くなりました。
皮膚の弱い御婦人や、お子様方の美しい肌を荒らす風が吹きます。
養つた肌は決して荒れません。
ライオン化粧石鹸で淨めた肌は益々美しく輝きます。



本舗　小林富次郎
(585—4)

お化粧の跡が少しもなく
お肌が自然の白さとなる
上流貴婦人始め淑女令嬢青年紳士に大評判の美容液
ほんのりと色白くなる
レートフード

東京・平尾賛平・大阪

長女美子儀豫て病氣中の處藥石効なく二十三日午後二時死去仕候就ては二十五日午後一時自宅出棺葬式相營可申此段辱知諸彦に謹告仕候也
大正十四年十二月廿四日
ホーン商會
父　清水洋
親戚　高田一同
佐野讀三
鍵彦藏
田島一郎
二宮宗一
中村常一
佐藤幸常
太田半次郎
秀太郎

葬具萬般盤輛罷在り斯業に經驗深き者専ら業に當り如何なる御儀式にも決して差閊無之候
京城大和町一丁目(總監部通)
大和葬儀舍
電話二四三八番

電一五六七番
旭町二丁目(名古屋城下)
株式會社　京城葬儀社
本社は支店出張所等無之に付御用の節は直接御用命願上候
靈柩馬車の設備有之候
二川協事　中河原重吉
電話九五七番　井上芳太郎

尼崎汽船　仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸大阪行
秀吉丸　十二月　日後四時出帆
君が代丸　十二月　日後四時出帆
土洲丸　十二月　日後四時出帆
神代丸　十二月　日後四時出帆
大有丸　十二月　日後四時出帆
第二太湖丸　十二月　日後五時出帆
仁川海岸通二丁目　電話五九番　高杉回漕部

大阪商船　仁川出帆
○外國航路(遠洋航路を除く)並に近海航路の切符は五分引を以て連絡切符發賣仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
汕頭丸　十二月廿六日　午後五時出帆
温州丸　十二月三十日　午後五時出帆
×濱城丸　十二月　日
○×木浦、釜山、長崎行（▲は厳原郷ノ浦に寄港）
安東丸　十二月廿六日　午後二時出帆
▲城津丸　一月二日　午後二時出帆
○×鎭南浦、大連行
安東丸　十二月廿八日　午後二時出帆
城津丸　十二月廿八日　午後二時出帆
◎×鎭南浦行
漳州丸　十二月　日正午出帆
◎大阪直行
天佑丸　十二月　日後五時出帆
○△△群山、釜山、横濱行
千珠丸　一月十二日　午後四時出帆
チヨイサン丸　十二月卅日　午後四時出帆
○△△大連直行
千珠丸　一月七日　正午出帆
チヨイサン丸　十二月廿五日　正午出帆
○清津、浦潮行(元山出帆)（▲は城津西湖津に寄港浦汐不寄港）
▲地久丸　一月八日
神宮丸　十二月廿八日　午後三時出帆
大智丸　一月一日
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
湖北丸　十二月廿六日　午前十時出帆
安平丸　一月十日
御注意
○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との船車連絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆前約一時間前御乘船を許可度候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話一一番二二〇番五五〇番
京城切符發賣所　内國通運會社支店　電話七八〇番
中國四國沿岸各港行船客に對し當分の間門司より門司下關間を以て連絡乘船切符發賣仕候

共同汽船　仁川出帆
阿波共同汽船會社指定芝罘、大連行
第共同丸　十二月廿四日後二時入　十二月廿六日前九時出
朝鮮郵船主として青島行定期船に接續運送御取扱仕候
城津、清津、浦潮行(元山出帆)
第一阪鶴丸　十二月　日後九時出港
西湖津沿岸各港を經て雄基行
第三共同丸　十二月　日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社
本町一丁目(電話一〇八番)　仁川代理店　山下回漕部
元山代理店　田口回漕部
京城取次店　河村運送店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行
立神丸　十二月　日後五時出帆
○元山清津浦潮行
立神丸　十二月卅日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行
小倉丸　一月　四日後五時出
○元山、城津、浦鹽行
小倉丸　十二月　日後十時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三琴平丸　十二月　日後九時出
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸　一月　一日後六時出
○佐須奈、厳原、壹岐、博多行
天長丸　毎月二日九日十六日廿三日廿日廿六日　午後十時出帆
釜山港頭立新町　本船取扱店　大池回漕部

日本郵船　仁川出帆
○大連、秦皇島行
相模丸　十二月廿七日　正午出帆
三河丸　一月十二日　正午出帆
竹島丸　一月三日　正午出帆
仁川海岸町一丁目　電話十一番　堀回漕部

朝鮮郵船
京城營業所(電話長一九五一番・二三二三番)
全羅丸　一月三日
京畿丸　一月十三日
黄海丸　十二月廿八日
咸鏡丸　一月七日　釜山發
慶城丸　十二月廿九日
昌平丸　十二月　日
鏡城丸　十二月廿五日　元山發
平壤丸　十二月　日
忠清丸　一月十日　元山發
永興丸　毎月廿八回　元山發
嘉島丸　十二月廿五日　釜山發
江陵丸　江陽丸　毎日　(釜山浦項)發
三浦丸　十二月廿八日　釜山發
統營丸　海州丸　巨濟丸　毎日　釜山發
順天丸　三日目毎　木浦發
慶興丸　十二月廿七日　木浦發
公州丸　(月三回)　木浦發
公州丸　十二月廿七日　木浦發
宗信丸　一月四日　仁川發
江原丸　芝罘、大連、青島行　十二月廿七日　仁川發
麗水丸　晋州丸　十二月三十日　仁川發
金州丸　南陽丸　江華島、桐島、海州行　毎日午前　仁川發
平安丸　十二月三十日　群山發　十二月廿七日　若松發

京城日報
第三版
十二月二十五日朝刊（第二千九百八十三號）
本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾錢 [illegible]
廣告料 五號活字一行金[illegible]
發行兼編輯人 [illegible] 印刷人 [illegible] 發行所 京城太平町一丁目 京城日報社 電話 [illegible]

東京期米特電 二十四日前場 一月限 [illegible] 二月限 [illegible]

仁川米豆取引所 [illegible]

手仕舞筋内と見るべき者あり[illegible]九[illegible]るが[illegible]より手仕舞賣物出はれ[illegible]其他より手仕舞買ありたるも七錢さ寄れに戻して散會したり市況は大阪の關心なきと年末手仕舞の外見るべき[illegible]

▲本日の現物界 [illegible]

二十四日の二月限
移出寄付 [illegible]
止〆 [illegible]
高値 [illegible]
安値 [illegible]

十二月限 一月限 二萬七千五百五十石 二月限 三萬五千五十石

[illegible]より乘組人は悉く海中に飛び込み積島陸岸に泳ぎ着かんとせしも寒氣の爲め身體自由ならず一名を除くの外孰れも行衞不明となりたり

危哉支那
暗礁に向て巨船の猛進するに似たり

現下の支那は、日一日と、混沌時代に接近しつゝありて、帝政に關しても、昨日迄は專ら外政に、其の力を用ゐ、頭を惱めつゝありしも、歐洲戰の結果、幸にして支那の外交は、之れを支那より見れば五箇國の勸告を退け

▽一氣に國體變更 を呵成せし處は、先づ成功に近きものゝ如し然れども今日は内政に於て頗る苦心慘憺たるものあるものゝ如し即ち帝派が勢に乘じて、忽ち其の目的を達せし丈け其れ丈け、更らに内政は危險に瀕しつゝあるは事實也、頃者傳ふる處に依れば南支那は不穩なりと、廣西の陸榮庭は獨立の宣言をなしたりと、蔡鍔決意雲南に入り、廣西と相呼應して起つべしと、又は安徽の倪嗣仲は廣東の龍濟光と相反目し、互に其の勢力爭に汲々たりと而も倪は帝政派軍人の頭目にして、龍は、反帝政に屬する者なれば、此の勢力爭ひが、或は

▽大禍の基たらん も計られずと說く者もあり、されど之れ等の多くが流說巷傳に出でしもの多きが如き感あるは何人も否認せざる處なるべし、此の時此の際兩派が互に其の策戰上に於て、特に空傳虛說を世上に散布するは當然の事にして、且つ支那人獨特の端睨すべからざるものあれば必ずしも是等の通信報道を以て、現下の支那を卜すべからざるは明かなる次第なりとす、然れども大體に於て帝政派の作戰は著々として、其の好果を收めつゝあるものゝ如く、今其の一例を擧げんに、玆に有力なる一團體として、公然帝政反對の旗旐を鮮明にし、極端に袁總統の非行を發き

▽堂々天下に檄し 憤起せし、孫洪伊を首領となしたる進步黨なるものあり、其の始は脫兎の如かりしも、今や處女の如く其の聲を聞かず、然れども之れ必ずしも進步黨の策戰其の宜しきを缺ぎしのみに止まらず、支那一流の政戰に於て、見事に帝政派に征服せられたるの觀あり今其の帝政派の手段を見るに、彼の前籌安會の領袖たりし楊度は、進步黨員が首領孫洪伊の排袁檄文を見て[illegible]たりと聞くも、次で恐怖となり、終に之れを忌むに至りしを觀取し、機の乘ずべしとなし、黨員を誘說し自らも帝政不贊成を力說し其の

▽反袁大會を開く や會場に宣言書として、會衆に示したるは、奚ぞ知らん帝政贊成の宣言なりとは而も之等の術策は一再に止らず、同黨理事王卯川は、本部の名義を以て大會を召集し、衆に對つて君主推戴に贊成を乞へり、斯る詭詐的手段は遂に會衆の信用を失し、政治團體として、帝政に反對なりし唯一の進步黨も、今や帝政派に蹂躙せられ、反對の氣勢を又た能く揚ぐる能はざるの破目に陷れり。

▽益々難局[illegible] 斯くの如くにして、帝政派は、其の得意思ふべきも、彼等の前途には尙ほ未だ多大の障礙と危險橫はりて存す、帝政派の恐るべきものは所謂軍人派の巨頭にして、彼等は既に帝政派の好策を百も承知の上なれば、未だ其の態度に於て表現せられざるも、彼等は寧ろ反帝政よりも自己の上戴を取つて起つの止を得ざるに至るべし。帝政派の今日の成功は他日恐るべき大禍を惹起すべき伏線たるなくんば非ず、今其の禍亂を想像し、其の結果を按ずれば、或は支那は南北に分離し、南方は共和に、北方は帝政に屬すべく、第三革命の因は之に依れば、滿蒙亦獨立の旗幟を翻さんかを感ず、危い哉、支那の内政は、恰も暗礁に向つて巨船の猛進するに似たるあり噫々、

朝鮮の先史民族（前承）

八木奘三郎

（七）先史民族の推定

日本の石器時代研究はモールスの大森貝塚發掘以來既に三十餘年に及べり、而して其道に志す人々には理學醫學、文學以下の諸科に屬する學者有り、又美術家、宗教家、實業家等各般の人物も亦之に加はれり、然れども未だ其民族の如何を確定し得ずして、僅にコロボックル及アイヌ論の爭ひを見るに過ぎず、蓋し研究上の困難甚だ多きが爲めならざるを得ず、勿論孰れか其一方の說を信ずる人々は互ひに確定說を述ぶれども是等は未だ通說と稱す可からず、又歐洲の先史住民も最近古人種學の起る有りて、今の歐洲現民族を保つが如しとの說ある由を聞けども、是亦確證を得ざるに似たり、斯く困難なる問題を朝鮮の如く僅に研究の初步に在る土地に於て述べんとするは宛も大象の一局部を探りて其全形を推せんとする盲人等の言に齊しと雖も、元來學說は何人か始に原案を出し、漸次研究と論爭とを重ねて後、正鵠を得るが過去の現象なれば、予輩も其一人として玆に卑案の所見を述ぶ可し而も其前に先覺知己の說を紹介するは普通學界の禮義にして且つ記述の順序なれば少しく其略を云ふ可し歐洲の學者中には朝鮮の先史民族をアイヌなりと說くものあり、例せばシュレンク、リヒトホーフェン、ベルツの如きは其人なり、勿論朝鮮アイヌ說は重に其南方民族に就て云へる有樣なれば、八道全般を意味するにはあらざる可しと雖も、何にせよアイヌ說の存するは確實なり而して我邦に於ては小金井博士亦其說を主張すれども、是等は石器研究の結果として今後は自から消滅す可し、即ち北海道千島、樺太の地に其餘喘を保ちてアイヌ民族は現在日本の北部に保ちて他方面には同民族の存在を見ることなし、而して彼等の徑路を史上より按ずれば北方より南進して復た北方に退きし實狀を示せども、チャンバレンの說に據ればアイヌの地名は九州より海を超えて琉球諸島にも存在せしと云ふ、[illegible]レンク以下の說はアイヌが日本より韓地に渡れりと見るに非ずして寧ろ韓地より日本に航し、更に大和民族の爲めに北方に驅退せられたりと考ふるに似たり、若し右の如しとせば其古き時代に屬する石器の類は打製品を得ず然れども其實韓地の先史民族は已に打製の域を脫して磨製時代に迄進步せり、去れば此實例は以てアイヌ說を破るに足れり、尙ほ鳥居君の人體測定調査を聞くに、朝鮮の南方住民のスタイルは北部と異りて三韓民族に連絡せるに似たりと云へり、若し此說を正しとせば三韓のアイヌ族と異るは明かなるにより、方以て舊說は成立せざる可し、然らば彼等は果して如何の人種と認む可きや、予は嘗て知己の某學士より三韓族は南洋方面に緣故ありとの說を聞きしが、當時如何なる點にて斯く推斷せしやを究めざりしも、元來アレイ民族は古代日本にまで到達せしことは諸學者の意見一致する所にして、殆んど動かざるに似たり、然るに其對岸なる朝鮮半島に一も其跡證の存せざるは寧ろ怪しむ可き次第にして、其學士の斯く斷せしは却て當を得たるやも圖られざるなり、要は其確證の有無如何を明にするに在り、予は其後朝鮮の南風北俗と題して、三南地方には南洋的土族の存する由を述しが、斯る觀察と主張とは必ず今後學者の間に起る可き筈にして若し果して其說の少なかりしは一に研究者の乏しかりし結果なり、然れども已に以上は決して存を看過することは能はず、顧ふに朝鮮の南部には其證跡の認む可きもの必ずや發見せらるゝならん、唯だ先史民族との連鎖に至ては未だ明確なる證左を得ざるを恨みとす、去れども半島全體の上より觀察すれば之を二民族と見る方適當せざるか如し、故に以下之を分離して記述す可し

日支條約反響
遼西區域問題

滿鐵理事權田貢興氏歸東の途記者に語つて曰く一時兎角の批評ありしと雖も日支新條約により獲得せし日本の利權は日支兩者の利權を永久に確保する一大鐵案たりと信ず付て内地其他新聞紙に報導せられたる遼西區域問題の如き必らずしも新聞紙報道の如き大袈裟のものに非ず而かも新聞の宣傳せる所以のものは本邦の新條約に據る

△遼西入住の當否 より來れる所謂居住權の爭にして新條約は鄭家屯は南滿洲に屬するものと認め居るに對し一部支那官民は遼西區域内と認むる能はずと主張せる彼我見解の相違に胚胎せる一問題なり直に排日思想の昂騰なりと云ふも必ずしも然らず事端は鄭家屯附近の[illegible]氏が居住の目的にて入住せる邦人に對し如上の理由に基き自由雜居の拒絕を固持し邦人は飽迄新條約の許可範圍を主張するの勢ひ遂に彼の[illegible]頑强抗爭する[illegible]排日の手段となり漸くにして排日の聲を聞くに至りたる次第なるも而も遼西の地たるや僻陬にして頑迷なる土人が未だ日本及日本人を理解するに至らず單に領土侵略なりとの偏見を抱持し徒らに我を排し壓迫せんとする固陋なる反感より事此に至れるなり然れども

△有識者に於ては 毫も斯くの如き謬想に因はるゝものなし斯くて漸次彼等の理解に伴ひ問題は自然に解決さるゝものたるを思ふ而して吾人の最も注目すべきは彼等の愚迷の徒を煽動しつゝありと傳へらるゝ一部反日支那人中遼西は素と是れ直隷省に屬して新條約無效の地域なりと使嗾し居れる事實なり其他彼等の誤れる心術よりして惑は指定鐵山調査委員の旅行を阻止し或は甚だしきに至りては邦人を誣ふるに無辜の罪狀に問はんとするの陷穽を設くるものあり然れども邦人側は克く隱忍し彼等自暴の時期を待ちつゝある一方我側[illegible]兩者の調停に盡力しつゝあれば必らずしも憂ふるに足らず遼西時局に於ける鐵道政策は

△極めて重要視さ れ列强[illegible]この交渉日に增大しつゝあるは喜ぶ可き現象と謂はざる可らず日支新條約[illegible]に當りて滿鐵と吉長鐵道[illegible]の間に商議されつゝありたる[illegible]滿鐵經營より轉移さるべく[illegible]で四[illegible]鄭家屯に於ける協定も[illegible]借款契約の成立せるは事實に屬す[illegible]借款金額[illegible]百萬圓[illegible]の歸來は即ち此の要務を果すべく今次何れ近く詳細なる内容發表さるべし（大阪支局發）

議會覗き

東京支局 一記者

二十日の衆議院豫算第一分科會で國民黨の高木益太郎君『國民黨は決して消極的主義一點張りではない必要と認むる經費にはドシ〳〵贊成するが參政官のやうな無用な冗官を設ける豫算には反對する』▲といつて田川參政や關副參を睨め附けるので流石の御兩人顏を俯向けて終ひ▲傍聽席にゐた小山副參も居堪らず飛び出したので委員一同大笑ひ▲中正會は一人で川崎克君が『中正會は一人一黨といふが黨といふ以上二人稱だ、宜しく一人一說と改むべしだ』と屁理屈を列べてゐるとヌツと這入つて來た花井卓藏君『ウンニヤ一日一說の方が適當ぢや』で鬼が附く▲公友俱樂部の小山松壽君向ふ見ずに犬養木堂をトッチメる心算りで『騷擾事件の始末を貴下は片手落だと仰るが若し同志會の富田加賀兩君を懲罰に附したら武藤君の除名に贊成しますか』と膝詰ると▲木堂濟まし返へり『イヤ、最う一人あるよ外ではない島田に法衣を着給へ相談はマア其れからサ』で小山君グーと參る▲同じ日第三分科で鈴木萬次郎君『僕は與黨に屬すれど斷じて然らず』と大した權幕で『農商務省に綱紀ありや』と許り大演說に及ぶと白髯を撫してモジモジして聽いて居つた河野農相▲今日ばかりは何に感慨してかヌツクと立ち上り論語孟子の對句を引き懸河の辯を振ひ『夫れ調査と云ッぱ事易きに似たれ共例へば水産の如き鯨を捕らんとせば其發生より海潮の全般に亘りて研究せざる可らず』底な大議論を一言の言ひ淀みも無く述べ立て敵も味方もアッとばかりに壓倒させたが▲鈴木君堪りかねてクス〳〵とやつたので忽ち八百長の尻が割れたのはきづかつた▲同日例の氣合術の江間俊一君滔々と催眠術取締の質問と出かけ果ては大正藝者の攻擊に及び▲『現に三味線の持ち樣も知らず流行唄も碌々歌へぬ女が藝妓で候と立派に鑑札を受けて酒席に侍べつて居るが彼等は或る事を爲す以外に何等の能もないことは天下萬衆の認めて疑はぬ所である』と本氣の沙汰で辯じ立てる▲相手の内相は吉原に足を入れたのは火事の時只一度と云ふ有名な謹直家丈けに對照が面白いと谷所でクス〳〵（二十一日夜記）

京日詩壇

○懷故岡村初之助君　望月 桂軒

哀雁聲聲悲影長。空山落木轉荒涼。蔽
時何片交來去人。人事無常人泄涙。高潔
持身淡古士。至誠報國拓新疆。愁雲暗
齊天涯遠。揮涙蕭然望彼蒼。
恪勤精勵自發跡。官位途高腰益低。恬
淡脫塵忘射利。慈仁攄我努提撕。一國
義會爲生動。八道鐵軌想賢齊。快笑歎
餘迹夜夢。忌召彷徨覺猶迷。

評曰 悽惋悱惻、至情動人

○偶成

漫投俗界把牙籌。無復忘機逐海鷗。聊
有詩書分慰藉。黃塵堆裏不知愁。

評曰 用筆老熟、意殊恬淡

○次木田芳洲見寄韻

苔衣松蘚古碑尊。千歲英靈髣髴存。只
恨紅塵侵此境。遊人誰意弔忠魂。
遊人誰意弔忠魂。遊季如今稱獨尊。風
敵無威日輕薄。紛紛世上奈空論。
潮水茫茫眼界寬。秋高淡島海風寒。宛
然身在畫圖裏。追月吟行灘又灘。

評曰 筆力雄[illegible]、眞使人坐畫中

○雪霽出城　松田 學鷗

雪霽日初昇。霽野銀濤
湧。翠峰玉簇佛座。霜木
見玉陵。欲就茅亭醉。風景感廢興。

高野竹陰曰 寫出荒涼蕭殺、信如目睹

臨井學圃曰 雪霽二字、以起頸聯、廢興二字、以應頸聯、作法可觀

大正五年 國民年鑑

年末年始の絶好贈答品
千頁の大冊定價五拾錢

三度の飯は二度にて可也と論ずる者あれど國民年鑑の不必要を唱ふる者の日本國民中唯一人も有らざる可し

國民年鑑目次

◉大禮記 ▲大禮前記、大禮の準備、齋田點定の儀、大禮延期、大禮使と大禮費、諸儀式御日取と大禮舉行地、期日奉告、齋田點定の儀 ▲大禮本儀、賢所移御の儀、東京、京都 ▲即位大禮、皇靈殿神殿へ奉告の儀、紫宸殿の御儀、賢所神樂の儀 ▲大嘗祭、御禊大祓の儀、神宮皇靈殿並に官國幣社に勅使發遣の儀、大嘗祭前一日鎭魂の儀、賢所御饌供進の儀、皇靈殿神殿に勅使發遣の儀、神宮奉幣の儀 ▲大嘗祭本儀、悠紀殿供饌の儀、主基殿供饌の儀 ▲大禮後儀、大嘗祭後一日鎭祭の儀、大禮後大饗の儀、大禮後大饗第二日の儀、大禮後大饗夜宴の儀、神宮親謁の儀、神武天皇山陵親謁の儀、前帝四代の山陵親謁の儀、東京に還幸の儀、賢所溫明殿に還御の儀、大禮雜記、恩赦、賜位、敘位敘勳、養老賑恤、神社昇格、文部省大典奉祝唱歌、記念事業、各地方賜饌、東京市の奉祝、京都市の奉祝、大阪市の奉祝、授爵、觀兵式及觀艦式

◉一般事項 皇室、領土及土地、氣象、人口、政治、外交、軍事、財政及金融、農業、牧畜業、林業、漁業、鑛業、工業、電氣及瓦斯業、商業、外國貿易、交通、鐵道、海運、通信、宗教、教育、表彰、圖書館及出版物、衞生、慈善、司法警察、美術、文藝、演藝、歌舞音曲、相撲、運動遊戯、大正四年一月以降の重要事件、東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戶市、名古屋市、北海道、朝鮮、臺灣、關東州附滿洲、樺太、在米日本人の發展、英吉利、濠洲聯邦、佛蘭西、獨逸、露西亞、墺地利洪牙利、伊太利、北米合衆國、支那、過去帳

◉現代人物一覽 日本の部、朝鮮の部、支那の部、歐米の部

◉銀行會社一覽 大正五年略曆、年曆、年齡早見表、滿年算月表

本書索引の一節

◉位置（日本）◉市場◉醫學聯合大會◉醫師◉伊太利▲土地の利用▲陸軍▲離婚率▲王室▲王室費▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲內閣▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲財政▲砂糖▲議會▲教育▲漁業▲面積▲人口▲宗教▲祝祭日▲生產及死亡◉圖書◉英吉利▲土地の利用▲領土▲陸軍▲離婚率▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲大學▲內閣▲農業▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲物價▲鑛業▲皇室▲皇室費▲鐵▲財政▲產業▲議會▲教育▲漁業▲面積▲宗教▲祝祭日▲入口▲製造業▲生產及死亡▲石炭▲船舶◉移民◉意匠登錄◉印度◉印紙稅◉飮食店

大取次所 京城太平町一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

第三十七回帝國議會

衆議院（二十四日）

▲豫算委員總會

衆議院豫算委員總會は二十四日午後一時三十五分開會、各分科主査より各分科會に於ける經過並に結果を報告し、主査が加藤定吉（第一）細瀬軍之佐（第二）淺野陽吉（第三）山田珠一（第四）的野半助（第五）鈴木寅彥（第六）諸氏の報告了るや

▽元田肇氏 贊否の決を採るに先立ち質問ありとて起立衆議院守衛長を奏任待遇と爲すは議院法を改正するの意志なりや否やと質し

▽武富藏相 は政府は議院法改正案を提出する筈なりと答へ片岡委員長總豫算案を議題として意見を開陳し其部分に亘りて採決す可しと宣ず次で

▽三土忠造氏 は政友會を代表して正副參政官俸給、傳染病研究所醫官費、帝國鐵道特別會計資金、米價調節費、衆議院選擧改正調査費、警察官補費を本除外とり削除す可し詳細は本會議に於て述ぶべしと修正意見を述べ

▽鈴木梅四郎氏 國民黨を代表し各省豫算に大々的斧鉞を加へたる削減論を述ぶ

▽元田肇氏（政友）は三土君の修正意見に附加し、尙ほ一項の修正案を提出す可しとて議院法改正未だ成ざるに守衛長待遇に關する經費を豫算に計上するは本末を誤るものなるを以て右經費を豫算中より削除す可しと主張するや小林嘉平次氏（中正）は航路補助費の半減を陳べ

▽石橋爲之助氏（中正）は司法省所管裁判所復舊費及び福岡控訴院建築費は分科會に於て削除したるも復活すべしとの意見を述べ、岡﨑次郎氏（中正）は樺太築港の復活意見を陳ぶ次で、川原茂輔氏（政友）は築港費復活意見に反對す

▽元田肇氏（政友）は海軍擴張費に關し海軍擴張は國防上止む可からずと認むるも本豫算に計上せるものは單に五年度に於て爲す可き經費にして六年度以降は如何なる財源に依りて之を完成せんとするや不明なり、政府は不確實なる財源の下に之が完成を期せざる可からずとの警告を與へて原案に贊成す

▽濱口雄幸氏 は同志會を代表し余は政府原案に全然贊成するものなり、我黨は政友、國民兩黨の諸君と財政經濟の論議を異にし居れり反對黨は國債整理金三千萬圓以上を五千萬圓に改めむとする說を有するも目下の如き正貨增加、金融緩漫は一時的變態にして永續すべきものに非ず此の變態を見て將來の財政計畫の根本を變改するが如きは危險極まれり又米價調節費等は國家の爲め必要なりと認むと述べ次いで

▽山本悌二郎氏（政友）は國債整理基金米價調節費に關し濱田國松氏（國民）質問したる後簡單に反駁を試み、三土忠造氏（政友）渡邊修氏（政友）は米價調節費削除意見を述べ高木益太郎氏（國民）鐵道資本を流用し廢減稅を行ふ可しと論じ高木正年氏（公友）米價調節費の必要なる理由を述べ

▽齋藤隆夫氏（同志）控訴院移轉を否決しながら豫算面を是認するが如きは不可なりと論じ山本悌二郎氏（政友）と濱口雄幸氏（同志）との間に問答ありて鬪論終結採決の結果政友會削除說國民黨削除說は何れも少數にて否決となり控訴院移轉費削除は多數にて原案を否決し其他の諸案は多數にて原案全部を可決し委員長は引續き追加豫算の審議を爲す可しと宣したるも元田氏の反對ありて午後四時休憩、午後四時五十分再開委員長本日は此れにて閉會明日午前十時開會の旨を宣し散會（東京特電）

◎兩派阻隔 尾崎法相の苦慮

同志會が政府の提案に係る長崎控訴院移轉案に反對したるに對し尾崎法相は勿論中正會は擧つて同志會に對し反感を抱くに至りたるがさなきだに同志中正兩派間の感情を阻隔し居れる矢先きとて中正會内には尾崎法相としては此場合相當の覺悟をなすを得策となすと言ふものあり其れかあらぬか法相は本會議散會後深き考へを胸に包み何人にも其意中を語らず早速退院せしも事態は早晩容易ならざる結果を見るに至るべしと觀測さる（東京特電）

◎蔡鍔謀略漸く熟す

北京英國公使館に達したる電報に依れば蔡鍔は二名の革命黨員（一名は李烈鈞か）と共に雲南に入り舊部下の軍隊を說き且つ一方同省諸軍との間に暗に妥協成立したるものゝ如しと（東京特電）

◎奉天の放免囚徒盜賊と化す

段上將軍は地方軍隊に恩賜金を分與し且つ輕罪囚を大赦なりとて放免しつゝあるが放免囚は衣食に窮せるため何れも盜賊と化しつゝあり又放免せられざる囚徒にして破獄を企つるものあり革命黨潜入し謠言と相俟つて奉天省は不穩の兆あり（奉天特電）

◎段上將軍以下授爵

段奉天將軍は一等公爵に孟吉林將軍は一等伯爵に朱黑龍將軍は一等子爵に王吉林巡按使は一等男爵に何れも授爵せられたり（奉天特電）

◎朝鮮師團 司令部所在地發表

二十四日官報軍令第十七號を以て今般朝鮮に新設の第十九第二十師團の司令部以下配備表を發表されたり内師團司令部の所在地左の如し（東京特電）

第十九師團司令部（羅南）
第二十師團司令部（龍山）

◎英國將官異動

英國陸軍省の發表せる所に依ればモンロー將軍はヘーグ將軍の後を襲ひて在佛第一軍の司令官となりチバルドマーレー卿はモンロー將軍の後を襲ひローバートソン氏は大將に陞任して臨時參謀總長となれり（倫敦特電）

◎總督大阪通過

寺內總督は二十四日午後八時二十分大阪通過山口に歸省す（大阪特電）

雜報

◎未曾有の出荷 鐵道貨物の盛況

朝鮮鐵道局調査に依る昨今の營業成績は歷報の如く近來稀なる良好なる成績を擧げ殊に貨物は鐵道開設以來未曾有の出荷を見るの盛況を呈せるが今最近十二月中旬に於ける客貨成績を示さんに乘車人員十三萬四千五百八十四人小手荷物斤量三十五萬七千三百七十四斤貨物噸數六萬一千八百廿六噸にして之を昨年同期に比較するときは乘車人員に於て千二百卅三人小手荷物斤量に於て一萬四百四十九斤貨物噸數に於て一萬二千三百六十二噸の何れも增加を示せり而して之が總運輸收入は二十四萬八千五百七十五圓にして內客車收入十一萬一千二百卅圓貨車收入十四萬七千三百五十五圓なるが之を前年同期に比較するときは客車收入に於て六千九十四圓貨車收入に於て三萬七千六百七十三圓の增收にて合計四萬三千七百六十七圓の增收を示せるを以て一日一哩平均に換算すれば二十四圓七十錢にして前年に比し四圓の增收なり

◎滿洲銑鐵輸出

滿洲銑鐵は元來本國品の割高なると船腹不足甚しく到底內地輸入の餘地なく唯だ英國クリーヴランド製の輸入あるのみなりしが同品も最近に於て神戶沖渡相場噸七十八圓にして之を戰前に比すれば二三十圓の昂騰を來せしが近來本國置場渡しならでは契約をなさず爲に運賃騰貴の危險並に內地搬入までの海上危險をも負擔せざるべからざる事となりし爲め前記の如くなりしものなるが昨今に於ては殆んど輸入の餘地なく尤も大阪御元にては明年二三月頃までは相當附けあれば當分は輸入を見るべきも其後は絕望なるが如し然るに大連よりは內地へ輸出されつゝある本溪湖產銑鐵は年々增加し品薄の昨今に於て內地商人の注目強く十月頃より輸出を見十九日入港の大福山丸の如きは多量の銑鐵積取りの爲め來港せしが同船は同港より六百噸の銑鐵を積載し若松へ仕向くべきが斯く輸出專用に來港せるは本年に入りて始めてなりと（大連）

◎朝鮮鑛業令改正の要旨

新朝鮮鑛業令は既記の如く二十四日の官報を以て發布されたり、其要旨左の如し

鑛業法及び砂鑛採取法は舊韓國政府に於て明治三十九年九月十五日施行し明治四十三年朝鮮併合後當分の內之が效力を認め來りしものなりしが今般朝鮮鑛業令の發布と共に廢止せらるゝに至れり

朝鮮鑛業令の施行日は朝鮮總督之を定むべく又其施行に必要なる規程手數料並に登錄稅等に關しては引續き同令施行前公布せらるべし今鑛業改正の要點を擧ぐれば左の如し

▲鑛種名の增加

舊鑛業法及び砂鑛採取法に規定したる鑛物は金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、滿俺鑛「黑鉛」石炭、硫黃、砂金、砂錫及砂鐵の十七種なりしが朝鮮鑛業令に於ては第一條に依り之に蒼鉛鑛、水鉛鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、重石鑛、高嶺土、石綿、燐鑛、石油、土瀝青、硅砂の十一種を加へ合計二十八種と爲せり以上十一種の增加鑛物は從前は土地所有權の支配に屬し土地所有者は一般行政規則取締の下に自由に之を採取するを得たり然れば國有地內に存する場合に於ては國は土地所有者として之が採取を許否し來りしが朝鮮鑛業令に於ては該增加鑛物を土地所有者の獨占に委するを政策上不可なりと認め第一條を以て之を國有と定めたり又砂金、砂錫及び砂鐵は從來砂鑛採取法を以て支配したるも朝鮮鑛業令にては其鑛物に之を編入すると共に砂鑛採取法を廢止せり鑛物を新に增加したる結果其の增加鑛物に付朝鮮鑛業令施行前國有土石採取規則に依り採取の許可を得たるものは同令第六十二條の規定に依り許可期間內は新令に依る鑛業の許可と看做すことゝせり又國有に屬せざる土地に於て朝鮮鑛業令公布の際民法上の權利に基き採掘したる者は第六十三條の規定に依り同令施行の日より六箇月間は採掘を繼續し得べし尙此の期間內に鑛業の出願を爲すときは其の出願處分の日迄採掘を繼續するを得るのみならず其の出願の許否は願書到達日の先後に依る第九條の規定を適用せざる定なり是れ新令に依る增加鑛物に付從來土地所有權の下に掘採事業を經營せしものの權利を保護せんが爲なり

▲外國人の鑛業權享有能力

鑛業權は從來內外國人均等に之が享有を認めたるが新令は外國人及び外國法人の鑛業權享有を禁じたり但し新令施行前外國人及び外國法人の既に享有する鑛業權は依然其の效力を認めたるのみならず其の鑛業權は外國人又は外國法人に於ても繼承し得べきものとし以て既得の權利を保護せり

▲鑛業出願許否の標準

同一地に對し同一鑛物の鑛業出願二以上ある場合には朝鮮總督府に於て最も先に願書の到達したる者に許可すると同しく第九條を以て朝鮮鑛業令は舊法と同しく原則として規定せり但し左の場合には例外を設けたり

（い）は高嶺土及び硅砂の鑛業出願なる場合にして高嶺土は輸出陶磁器の原料として名聲あるより硅砂は硝子の製造原料として適當なる經營者を選擇するの必要上例外と爲せるものなり

（ろ）は鑛業出願地又は鑛區の訂正の場合にして鑛業出願人又は鑛業權者より進んで出願する場合と朝鮮總督より出願を命ずる場合とあり第二十二條に規定せり孰れも鑛利を損するを以て單純なる出願地及び鑛區の增區又は增減區の場合に適用なきは當然とす

（は）は朝鮮鑛業令中に新に加へたる鑛物を同鑛業令公布の際採掘せし者が同令第六十三條の規定に依り出願したる場合にして此の場合は一に述べたるが如く朝鮮鑛業令發布前土地所有權の效果として既に其の鑛物の採掘及び取得を爲せる既得の權利を保護するの趣旨に出でしものなり

（に）は第五十八條に規定する朝鮮鑛業令施行以前より朝鮮總督府に於て調査の爲め保留せる价州、義州、新興、順川及价川等の金又は無煙炭地域及び舊韓國宮內府所屬鑛山地域と稱せし地方にして此等地域及鑛物の種類は朝鮮總督府令を以て別に告示せらるゝ筈也

▲國の鑛業

從來國の鑛業は鑛業法の支配を受けざりしものありしも朝鮮鑛業令に於ては第五十二條を以て國の鑛業に適用することを明定せり但し罰則に關する規定の適用を除外したるは國を代表する官吏に付ては別に懲戒法の

▲鑛業出願人の變更

鑛業出願人の變更及び相續は舊法中之を認むる規定なかりしが爲種々の不便を免れざりしが朝鮮鑛業令は之れを認めたり

▲金鑛々業權者の砂金採取權

金鑛を目的とする鑛業權者は第十六條の規定に依り既存の砂金鑛區ある場合を除き其の金鑛々區內に存する砂金を採掘する權利を新に取得することゝなれり從て金鑛々業地附近にて鑛粉搗鑛水車より放流せられ河床に流下して砂金と混在せるが如き又近の土砂中に混入せるものゝ如き何れも別段に砂金の採取を出願するの要なく金鑛業權者に於て之を採掘することを得（未完）

◎仁川年末金融

十一月中頃より出穀季に入り出廻り日每に增加し來れるより市況は頓に活況を呈し殊に十一日よりは玄米輸移出檢查法の施行せらるゝあり爲めに古米の大部分はその輸移出を焦り殊に定期受渡米の四萬叺と云ふ未曾有の大なる移出も加はるありて一時

▲港頭空前の盛況を呈したる狀況にして此等關係商人は金繰り稍々繁忙を極め從つて此方面に對する各銀行の貸出高は著しき增加を來せり一方輸移入市場は地方購買力の增進するに伴ひ各向吳服品及び食料品の賣行良好にして雜貨手形の取組み漸增し貸掛金の回收も亦格別の澁滯なく資金の流轉極めて繁忙なりき今仁川四銀行の預金貸出爲替受拂高及び手形交換高に就き攻究するに預金にありては十一月中の預り受入高前月の夫に比し五十萬五千餘圓を拂戾高にありては三十二萬八千餘圓を增加し

▲月末殘高に於ても亦八萬六千餘圓を增加せり然れどもその增加の內容を詳細に察するときは定期預金及び小口當座預金等の減少に對して當座預金は十萬六千餘圓を增加せるなり是れ預り受入高及び拂戾高の增加と相俟つて資金の運轉益々頻繁なるを證して餘りあり次に貸出商に就きて見るに貸出高に於ては百五十六萬五百餘圓入金高に於ては百十六萬四千五百餘圓孰れも非常の增加して月末貸出殘高に於ては三十七萬九千百餘圓の增加なり然して定期貸當座貸越荷爲替手形等も增加せるも殊に

▲定期貸に於ては 二十三萬四千餘圓の增加なり是れ正しく米穀資金として貸出されたる全額の尤たるものなり次に爲替受入高合計に於ては八萬四千三百餘圓拂出合計に於ては七十九萬餘圓を增加せり拂出合計に於ける非常の相違は朝鮮と內地間に於ける荷爲替取組及び被仕向送金の激增に由るものなり手形交換高に於ては前月に比し二十八萬四千五百餘圓前年同月に比しては四十一萬四千四百餘圓を增加し其他一日平均高交換差額枚數等に於ても其々增加せり之れに依つて之れを見れば年末金融が如何に繁忙の域に進めるかを推知するに足るべし

◎迎年と各軍衙

朝鮮駐劄軍司令部及び第九師團司令部にては恒例に依り來る十二月廿九日より翌年一月三日に至る迄休務することゝなり既に所屬各部隊に其々通牒を發したりと尙一月一日は各部隊每に其々遙拜式を擧行す可しと

人事消息

▲木村雄次氏（鮮銀理事）廿四日夜歸任
▲マカチー氏（米國人）二十四日入京朝鮮ホテルへ投宿

◎大阪より

▲海運界緩和劑 大阪鐵工所にては白洋汽船株式會社より注文の天正丸は戰亂勃發後同社にて引受けたるイシャーウード式型汽船（噸數三千二百噸）十八艘中の第一船にして二十一日公試運轉を行ひて非常の好成績を擧げ引渡を了したり同船は起工後僅かに三箇月半にして進水し三週間にして凡て艤裝を終りしが如きは未曾有の記錄を作りしものと謂ふべし工事中の同型船中他の三艘は一月中に進水し向後上半期に引續き竣工すべしと新造船は總噸數約二萬七千噸なりといへば目下船腹不足に苦痛を感じつゝある海運界にとりては大なる緩和劑たるべしと

▲阪神地方好景氣 阪神財界は漸次回復の兆を示して本年末一般市中の景氣も久振りに生氣の漲溢たるものあり特に神戶は川崎造船所の空前的好況を呈せる如き日本毛織が絕無成績を擧げつゝある如き鈴木商店關係事業の活躍せるが如き或は燐寸界が相當繁忙を呈せるが如き各方面とも好景氣なるに搗てゝ加へて船主の成金は主として神戶なれば神戶にて昨今株券の賣買數は近年になき殷振を呈して某銀行關係筋のもののみにて一日廿萬圓を下らざるが啻に株券熱に止まらず如上好成績より株主懷合裕なると從業者、職工に至るまで社會のあらゆる階級まで懷合潤澤を加へたる爲め年末賣行の如き日露戰後にも勝りて正に日淸戰後以來絕えて見ざる好賣行なりと歡喜せる商人あり假令ばメリヤス類の如き頃日來の賣行素晴らしく爲に大阪卸商に向つて追註文續出し十一月中旬迄左まで相場に變動なかりしもの數日前には四割高に約定せられたる實狀なり以て一般好景氣の程も察すべし

東京發別電

▲巴爾幹戰迫る 聯軍は勃興[illegible]

▲獨逸公使妄動 北京來電に據れば駐支獨逸公使は帝政實施を大[illegible]

▲大阪商船の決心 入坂丸[illegible]

今夏期以來頻に朝鮮發展を企圖せる[illegible]九州炭は漸く需要期に入ると共に[illegible]市內小賣に於ては猶依然たる勢力を[illegible]十錢に比し[illegible]海運界に於ける船腹不足の結果前月來多少炭價の値上を見るに至りたり

◎本町署の迷子數 過去四[illegible]四歲のもの最も多く三十五名中十六名を示せり尙之を保護者の職業別に[illegible]

◎井水が因で放火す 江原道洪川郡北林面自隱里朴圭貞妻邊姓[illegible]後九時頃接續せる隣家全部を全燒せしめたる爲め二十二日京城地方法院[illegible]

院長過般來上京研學中の處歸院す
結核科癩病科新設
京城櫻井町一丁目
內科 小兒科
池上醫院
電話一二七一番

ほとゝぎす
新年特別號 ●定價一部金四十六錢郵稅二錢 ●東京牛込船河原町ホトトギス社
●雀の巢（大阪を舞臺として大阪人を活躍せる傑作の小說）……上司小劍
●嫁盜み（福岡地方の奇風俗を綴りて交ぜたる可憐の小說）……久保よりえ
●十九日間（京阪遊記にして人さを敍して縮約）……高濱虛子
●赤腹日記（京大病院入院記十九日間と併讀す可）……吉野左衛門
●進むべき俳句の道（水巴評）高濱虛子
●子規の句講義（鳴雪、虛子等）●林檎を取る人（普羅）●山廬茶話（蛇笏）●雜詠集を讀む（柑子）●雜詠 虛子 其他

御贈答用 メリヤス各種
體裁優美實用向品揃
小供マント各種新荷著
足袋厚司 ショール 雜貨
京城本町一丁目
(イ) 鈴木支店
電話一八七二番

一本も空籤なし
ハキモノ福引景品付大賣出し
電話注文次第店員を早速伺せます
明治町 成駒屋 電話三三八番

清酒値上廣告
來る大正五年一月五日より左の通値上げ實行仕候
一大樽壹挺に付 金壹圓
一半樽壹挺に付 金五拾錢
以上
大正四年十二月
京城酒商組合

特許機械製
高等ほまれ味噌
特約發賣元 京城黃金町 三巳商會 電話三八〇番
京城南大門外 大三商會 電話三二九番

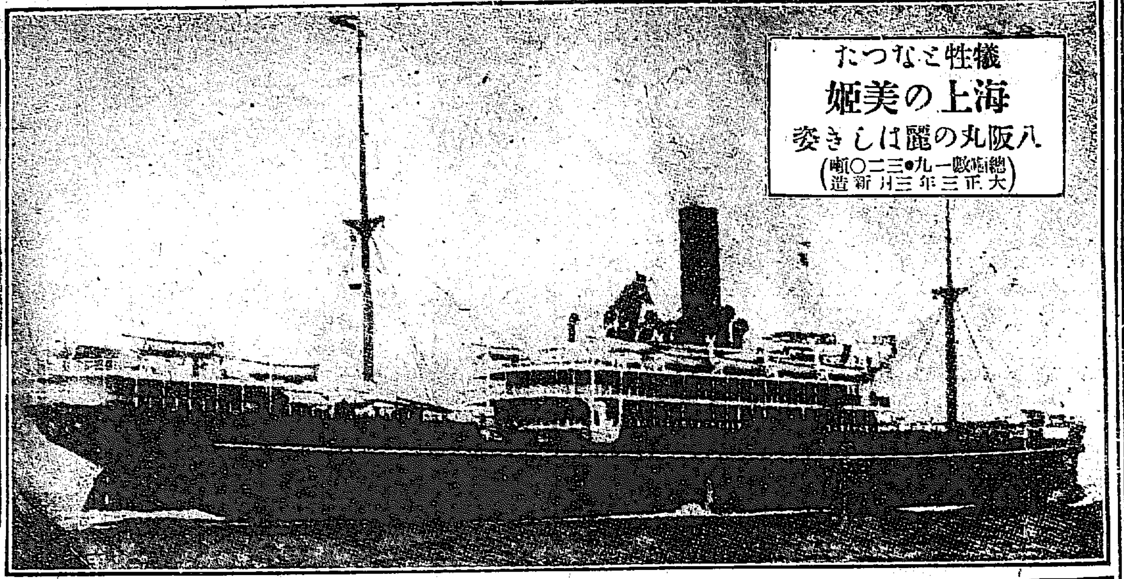
優等淸酒

福岡縣三井郡山川村
釀造元 富安本店
京城永樂町二丁目
發賣元 富安京城支店
電話一〇三九番 振替口座四三九番

…に向ひつゝあり

◎革命黨蠢動か 南支那に於ける革命黨の蠢動遂に物に成らず

…訴院移轉問題…に反目者ありて尾崎法相の地位危うしと言ふ者あり



犠牲となつた 海上の美姫 八阪丸の麗はしき姿 (總噸數一〇・九三二噸 大正三年三月新造)

◎大和撫子、赤き心に

感激せる白耳義總領事=京城夫人團活動

去る四日鍾路基督教青年會館に開催された白耳義國の寡婦孤兒救濟の慈善會は京城日本婦人側の温かなる美はしき同情心により實に同會館

■創設以來の大盛會

を告げ是が斡旋に努められたる石塚、渡邊、持地、鈴木、關屋、金谷、佐々木夫人達も非常な大悦びであるが又在京各國領事夫人達も一般日本婦人の温かい友情を厚く〳〵感謝して居るといふ、殊に白耳義總領事の如きは日本婦人の

■義俠心に感激して

誰れにも〳〵お禮を云つて居られるが這回は又畏くも白耳義國皇帝陛下より一般の義捐を乞ふ旨の御親書が來たとかでそれに對し京城日本婦人の盡力になる五百七十圓五十一錢の金を贈り得るのは自分にとつて非常な幸福であると

■毎時非常な悦びで

ある白耳義は目下國を擧げて横暴な獨逸人の爲めに蹂躪され可憐な國民は共れ〴〵漂泊の旅に上つて居るが殊に痛ましい國王陛下は故國に接近した佛蘭西のある村に起居されて居る現狀である、這回此の同情心の結晶した義捐金を

■故國の民に贈つた

なれば其の悦びは何んなであらうと總領事は眼を霑ませて感謝したといふ猶ほ過般の慈善會收支内譯は四百六十圓五十錢の入場券賣揚高と百六十二圓の外國人側の收入と三十九圓三十二錢の館内辨當お菓子賣揚高とで合計六百六十一圓八十二錢の收入に對し二十六圓の謝禮と

■七圓五十錢の接待

費と廿七圓四十一錢の設備費と六圓五十錢の印刷費と二十圓四十錢の照併及び袋代と三圓五十錢の手當費を差引き殘り合計五百七十圓五十一錢を贈つた次第で猶ほ其の他の費用は各世話方の婦人の手に自辨されてあるといふ事である、猶ほ此の慈善會の他に引續き

◎撫順炭と九州炭

所あり之が爲めに撫順炭の打撃容易ならざるものあり然れども撫順炭は[illegible]ならざるものあり然れども撫順炭は續々移入されつゝあり同炭も現時我[illegible]

▲[illegible]組合 [illegible]

▲増設組入 [illegible]等の支障を起さず[illegible]

■毎月十錢宛の寄附

金を募集しつゝある方は其の後續々申込者が増加して今では約百二十名の會員が出來其の多くは半年分六十錢を前記の各夫人まで送つて居られるが此の會は英國總領事レー氏夫人を會長に、石塚長官夫人を副會長に、持地夫人を通信記録係に、國分長官夫人を會計係に定めてあるが

■別にむづかしい役

員の定めもなく事務所もなく唯だ口傳てに會員が集まりつゝあるのは寔ろ無名有實とも云ふべき美はしい會であつて且つ役員が皆獻身的に立働らいて世話しつゝあるのは何よりも美はしい事である

◎春場所は元氣揃ひ

太刀山=鳳=朝潮=大錦=對島洋

一月場所は近頃に無い顔揃ひ、定めし毎日の好取組に破れるやうな大入であらう、巡業先から歸つた許りの某年寄に元氣力士の無遠慮な批評をさせる

■太刀山だつて 鬼神ではなし何日か衰へる日は來るに極つて居るが未だ未だ峠の絶頂に居る『俺れは強い』と云ふ自信が充分あるので落付きがあり其上に細心な人だから敵に乘ぜられる油斷が無い、大錦栃木強しと雖も未だ太刀の敵ではない對馬洋か宇都宮が左四ツになつて上手を引いたら面白いが大砲の晩年當陸駒の勇を以てして倘引分たやうに大事を取られては分より他は無い誰が一番最初に太刀を破るかは極めて

■興味ある宿題 である、鳳は捲土重來の元氣凄まじいものがあるが十日間の顔觸れが何れも好取組なのは横綱として聊か負擔の薄い感がある、併し強味に於ては矢張り太刀に次ぐべき人で惡くとも八日位は勝とう横綱に成つたからとて角力振りをかへるとは無い押して出るが好い、朝潮は東方に居るよりは反つて西方(太刀山組)の方が働き勝手がいいやうである今年は身體も一層に出來強味も確であるが此人も調子相撲の傾向があるので初日二日目邊りに負けると

▲案外な不成績 を招く虞れがある、新大關の大錦は一月の國技館を脊負つて立つ可き程の人氣であるだけに最も取り難い場所である、太刀山に對しては未だ最負目に見た處で四分六勝負、其他に對しては鳳同樣十日間殆ど好取組のみだが鳳、朝潮、大蛇潟の三人に對しては最も苦心の策戰を要する、出羽の海門下の四天王の内實力の申合ひでは栃木宇都、對馬とも五分の角力であるが大錦が拔群の成績を得つゝあるのは頭腦の好い爲めである栃木は

■四天王の隨一 と云はれる理想に近い好力士今年は元氣一杯だから場所の働き振りこそ刮目に値する對馬洋は未だ立合の呼吸を知らないけれど強味に於ては非常なもので左四つ右上手を引いたら恐らく天下手になつた、大錦との角力は一勝一敗に成つて居るから面白い宇都宮は

■大なる未成品 である、強味に於ては大錦、栃木、對馬に勝る程であるが取口が如何にもぞんざいであるから今年は頗る元氣だから大に働くであらうが慢心を去らない限り駄目である、九州山は栃木式の堅實な取口の角力は益々巧者になつた之れも大關の卵子である、入幕すべき源氏山は大錦と三番申合つて二番勝つ程の元氣であるが此人の角力は兎角汚いと云ふ評判があるから其點を反省せねばならぬ(東京)

◎金毛の熊を狩る五百人

驚く可き北海道の荒熊の慘害

九日北海道苫牧郡御料地附近の田畑及び牛馬等數限りなく荒し七名の人を喰ひ殺し五名に重傷を負はせ其後警察署、營林署等必死となりて捜索に從事中なりしが危害を加へし熊の姿を發見し得ざる内十三日又もや同御料地附近の農家を襲ひ蒲團の中なる嬰兒を喰ひ出し子供を咬へ出す等此世ながらの修羅場を演出し上を下への騷動となり遂に五百名の人足と三百挺の鐵砲にて翌十四日首尾よく熊を射止めたり熊は全身金毛にて身の丈十尺にも達せり熊害の歷史あつて以來今回の如き悲慘事なし

◎慘憺たる酒の誘惑

露人の窮策=石油を葱の葉で飲む

『露國政府がアルコール飲料の禁止を國内に斷行して以來民族の中に變死者が多い』—斯んな風説は暗い東歐洲の一角から傳はつて來る是に就て最近露都から歸朝した人は次の樣な説明を與へた『平原を吹く吹雪や冷たい霧に呼吸してるスラブの人達は朝から晩迄ウオッカーの亂醉に親しむと云ふ事が之れ迄彼れの生命であつた其が戰爭以來一切のアルコール飲料の販賣を嚴禁して仕舞つたので國民は死んだ樣に沈衰し貴族は一流の料理屋に入つて極めて秘密に水注やミルクポットルの口から香りの高い『ポート』や『アブサン』の舌觸りを樂む事も出來るが一般の人達は此めしい禁令の前には何うする事も出來なかつた燈火用と云ふ警察の證明を得て少量の『アルコール』を舐めるのがせめてもの慰めであつたがそれも限りない、飲酒慾を滿足する事は到底出來ない終に『何か醉ふ物はないか何にかないか』と原始時代の民族の樣に總ての飲料を漁り廻つて考案した揚句最後に見付け出したのは石油であつた或る種の藥品で石油の臭氣を拔切り共れに長い葱の莖を入れて吸ふと『實に美味い』と彼等は石油を飲んでゐる此痛ましい飲料は決して長く續くまであらうか『まあ一つ君飲んで見給へ少しなら大丈夫だ』『なあにウオッカーと云ふものが無い時代に我々が生れたと思へば飲めるではないか』と此誘惑一人々々を凄まじい勢で石油に誘ふ、併し此變則な飲料に親しむ結果は實に恐ろしいものであつた、下級民の間には頻々として變死者が相踵ぐ此有樣に覺醒した者の間には『我等は此の機會に禁酒するのが天意に適ふのだ』と禁酒斷行の團體が此處にも彼處にも出來た、中には今迄酒の爲に破壞されて居た露西亞の家庭生活も次第に復活して行く美しい半面もあるとの事であつた

△女義勇兵▽

愛國の熱誠燃ゆるが如き佛蘭西の女五千人が當局の許可をも待たないで一の女義勇兵隊を組織したと云ふ珍現象がある彼等の職務は銃劍を持つて直接戰鬪に從事するのでは無い女は女だけに軍隊の炊事方若くは洗濯をやらうと云ふのであるが此寫眞の示す通り彼等は立派に軍服を纏つた堂々たる兵隊さんの姿をして居る

◎三兒分娩

母子共至て健全

大阪北區金谷町一丁目藤岡熊藏方香川縣生れ莫大小仕立職叶梅次郎(四二)の内縁の妻白井たき(三九)は二十二日午前十時男の三兒を生み而も母子共健全なり(大阪特電)

◎朴侯爵被詐取事件控訴棄却

其當時社會の耳目を聳動したる慶南密陽郡北面村沙浦安鍾樂(四三)が侯爵朴泳孝氏より八千餘圓を詐取したる事件は本年七月六日京城地方法院に於て懲役一年六箇月の判決を受けたるが同人は之れを不當として京城覆審法院に控訴したるが安鍾樂は朴泳孝氏が日本に亡命中明治三十九年二月頃より四十年五月迄の間に數回に亘り金八千五百圓を貸與し朴侯爵歸鮮後其返濟を受けず數年を經過し居る中右に關する債務の證書あるを便宜と考へ四十三年舊八月中借用證書を安へ交附し置きたり然るに其後朴氏は日本政府より金八萬圓の恩賜公債證書を下附せられたるより朝鮮銀行より全部を現金にて證書と引替へ右の内四十三年十二月三十一日朴氏は自宅にて安に對し金八千五百圓を支拂ひて事濟みとなりたり然るに安は郷里に立歸りたるも以前の借用證書を返濟せず右證書の手中にあるを奇貨として明治四十五年三月中辯護士を以て朴泳孝氏を相手取り京城地方法院に八千五百圓四年二割の利子を附し民事訴訟を提起し口頭辯論に於て辨濟を受けざる如く陳述して控訴及上告の三審迄を經て大正二年二月十八日遂に安の勝訴となり其後六千八百圓に減額して朴侯爵の代理人李祐來より該金額を受取りて騙取したるものなるが其後右は安の詐欺的行爲なりしこと判明し一審に服せず控訴中の所十二月二十四日京城覆審法院に於て棄却となりたり

…計三十五名其内々地人二十七名他は鮮人小兒にして之を年齡より見れば[illegible]法ならん

[illegible]札にても攜帶せしむるが便利なる方[illegible]

…所み合ひの姿なりし通姓女は之を根に持ち朴在熱一家を他に轉宅せしめむとし同家に放火せんとし[illegible]

◎公金七百圓を燒失す

去る十七日午後五時慶尚南道宜寧郡洛西面長尹鐘淵の自宅より火を失し同五時三十分全燒鎭火せしが同面長は目下徴税期なるを以て本月十日より十六日迄徴收せし税金七百圓を錠前付小函に納め盜難豫防の目的を以て居宅内房に置きたるまゝ當日徴税用務を帯び出張不在中なりし爲め遂に該公金は全部燒失したり尤も該公金は過半黒燒或は半燒となりて僅に其形を存せり

いよく佳境に入る!! 買物が出來た方は誰?
ちぬやの半額
第二當籤日は十二月十七日 依而右日付印ある買上票引替に一週間以内に於て半額(商品券にて)お戻し可申候
あと 二十四日より三十一日まで に一日の 半額日 あり
◎當籤漏れの方に相當の景品差上可申候
京城本町二 電話八九〇番

◎乞食泥醉して電車に轢る

京城忠信洞京城電氣會社運轉手崔光鉉(三十)は十九日午後六時半頃電車第七十號に乘り南大門通明治町停留場附近を東大門へ進行の途中軌道附近に住所不定の乞丐李壺寶(六三)が泥醉して蹲踞し居るに氣附かず電車を疾驅したるより乞丐の後頭部を轢き左肋骨を挫折せしめ遂に死に至らしめたる爲め業務上の過失致死として本町署にて取調の上檢事局へ送らる

◎背水畫伯展覽會

朝鮮の風光を愛するの餘り半島に永住せんと云ふ洋畫家高木背水氏は今夏京城に畫室を新築し以來創作に耽りつゝありしが今回半歳間の作品を倭城臺京城婦人會に陳列して廿四日より廿六日迄三日間展覽會に供す

◎丁字屋景品付賣出し 京城南大門通り丁字屋洋服店は朝鮮唯一の紳士御小賣店にて殊に最新式の裁斷術及び裁縫術は斯界に定評ある處なるが同店に於ては今回既製マント、オーバ、トンビ等の破格の廉賣をなしたる上正札より五歩引景品付大賣出しを敢行しつゝあるが贈答品及びシキモノ等に非常の好評を博しつゝ行盛んなりと

京日案内

◎普通 一回前金三十錢(無割引) 四行一回每に金五錢增

◎金庫 ハタイプライター コッピープレス 格安にて讓りたし ○姓名在社 187

◎清酒一升に付米一升御添へ致し升 是非一度御來店下さい歲末迄延期 京城黃金遊園前 坂本酒店 184

◎好職有り 至急男女募集す活動家は來れ ○南山町一丁目大和屋方△牧田 185

◎看護婦二名見習數名至急募集す希望者來談あれ(姓名 仁川京日支局) 173

◎古本なら野村 買入販賣御報參上 京城本町一丁目(明治町筋)電話二六三六番 野村書店 112

◎讓店 飲食洋食辨當仕出得意附 居拔の儘讓る希望者は黃金町三の九壹番壹二號 并丸方へ 199

◎番外 一回前金六十錢(無割引) 四行一回每に金十錢増

◎乳母至急入用 希望者は京城長谷川町安東病院又は黃金町三丁目山中留次郎商店迄至急御來談ありたし 194

◎餅用小豆あん製造賣出 種々 年内中は御用達一貫目以上は速達 若草町一 電話九五一 京城製餡所 190

◎内科兒科 專門 胃腸病 呼吸器病 京城本町二 舊町元中島病院跡(入院隨意) 山田醫院 電話二八八番 81

◎忠州行牛車貨物取扱開始仕候 到着迅速運賃廉確實 京城鍾路五丁目 ◎振替三二八九◎電話二三九一番 酒井運送店 179

◎年の餅 例年の通りちんつき出搗内搗も致します 元祖桃太郎饅頭 京城北米倉町 支店所在明治町通 親玉 米倉軒 未倉軒支店 166

◎求妻 卅五歲男子にて相當の資産有り齡卅五歲前後血統及品行正しき妻を求む美醜不問多少文筆素養ある者至急求婚し希望者申込あれ ◎姓名在社 195

花柳病 皮膚病 專門 永樂町一丁目商品陳列舘坂の上 須古醫院 電話三二〇二番 90

恩給年金類立替 京城武橋町二十三番地 入京城日報社北右に 電話二二八三番 國江商會 104

◎質 ○し弊店の特色は秘密を確守し完全なる倉庫の設備有之何品に依らず從前より一層勉強懇切に取扱申候 支那領事館筋 電話一〇九六番 南質店 118

質 京城黃金町二丁目(永樂町停留所北入) 堀佐營業所 電話六三九番 135

新年の御撮影は今度 明治町二丁目開業の大城寫眞部に限る技術正確調製迅速廉價提供 145

◎歲暮大賣出 破格二割引 時計眼鏡懷中電燈及附屬品一式 京城南大門通一丁目 黃金町電車交叉點側 金化堂 176

◎はねつき うちみ くじき 等一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 127

◎質 京城吉野町一丁目(南海湯下隣) 完全なる倉庫の設備あり 南海質店 191

動題 寄國祝 菓子 本日より賣出し例年通年餅大勉强 千支菓年の神 (香郵便局前)◎京城本町二丁目 電話二三四三 菓子鋪 本城屋 193

時代的御贈答品は高麗人參 人參精 四十日分三、五〇 廿日分一、五〇 京城明治町二 電話二四九六番 藤原參精堂 198

東京中川 懷中電燈値下げ 本品の優秀無代進呈是非一度他品と御試あれ 定價表 京城黃金町 振替京城一二一九 電話一八八 川合時計店 187

看護婦及見習看護婦募集 志望者本人履歷書携帶來院あれ但市内に確實保證人を要す ○京城壽町四(本町二丁目より入る)▲島崎病院 200

新刊書御案内

書名	著者	定價
朝鮮法令輯覽	總督府	九〇〇
大日本國語辭典	上田松井	特五〇〇
修正增補漢和大辭典	重野外二名	三〇〇
新選圍碁全集	鈴木爲次郎	一〇〇
宇宙縮冊解説	三宅雄次郎	一五〇
豪俠傳二卷	伊藤痴遊	九〇
西遊スケッチ	和田垣謙三	一二〇
未だ見ぬ親	石原巣川	一〇〇
銀と藍	日向きむ	八五
文壇與太物語	高山辰三	六〇
新作御伽學校	少年文學舍	六〇
金剛草	漱石	一二〇
新英文解釋研究	山崎貞	七〇
簡易製鐵術	向井哲	一三〇
土木工學上卷	日外五名	二五〇
俳諧日記	俳書堂	五〇
短歌日記	東雲堂	四〇
俳句日記	東雲堂	四〇
文章日記	新潮社	六〇
標準かるた讀取揃		八〇
同讀取鍛錬習用	東京かるた會	六〇

京城本町 電話二〇八六番 振替京城二五七三 大阪屋號書店

株式名義書替停止廣告 本社第三期決算ニ付本日ヨリ定時總會終了ノ日迄株式名義書替ヲ停止ス 大正四年拾貳月廿五日 朝鮮製綿株式會社

洋畫展覽 私儀朝鮮の風景を愛し先づ半歳間の作品左の通り陳列し高覽に供し度就ては土地不案の御方の爲め案内狀差上漏の御方に紙上を以て御案内申上候 陳列場 倭城臺 京城婦人會 自十二月廿五日 至十二月廿六日 高木背水 自宅 京城忠信洞拾番地 電話一五三七番

古木盆栽梅 福壽草 雪割草 大輪咲寒椿 ―×― 末歲年首贈答適品 古木梅、椿の如きは已に七八年來栽せしものにて他に類例なき物に有之候其他福壽草雪割草も尤も優秀の苗を選擇し至極廉價に販賣致候間一度御來觀の上御購求被下度願上候 京城大和町一丁目 警務總監部四ツ角 骨董 園藝 業 大舘龜吉 電話一三五五番

千生瓢 (80)

須藤南翠作　筒井年峰畫

會戰（一）

四月二十日の夜は、谷隆から立ち初めて、陣所陣所の篝火の、次第に火光を増す頃であつた。志津ケ嶽の砦に相對した佐久間玄蕃允盛政は、諸將を招いて評議をした。

『方々、先刻城中の使者、後藤又兵衛と申す者、夜陰を待つて退城致したければ、黄昏過る頃まで、攻め寄せぬやうとの歎願、武道の情を以て聽き濟し、其までの擬戰として、敵よりは空鐵砲を放ち、味方は楯竹束も用ひず、只から鯨波を作つて應じ居る事、既に方々承知の通り。然るに黄昏は早や過ぎて、最早夜陰に及んだるに、城中より何の合圖もなく使者さへも參らぬは、甚だ以て心得難い、此上は速かに押寄せて、只一破りに攻め陷すとも苦しからぬが、一應使者を送つて、退城を促がすべきや、面々の所存承はらう』

盛政は斯く言つて滿座を見渡した。先手の大將拜郷五左衛門久盈、座を進んで、

『軍使の口上は、大將と直應對も同樣おざる。更に使者を遣はして、開城の催促に及ぶは、當方の武威輕うなつて、甚だ然るべからざる儀と存ずる。五左衛門先手を承はる上は、直に押寄せ揉み落すべきなれど、開城遁延を詰問の使者を遣はし、同時に城受取の役人を繰り出だして、法の如く行ふ事、最も道を得たる儀かと存じ申す』と陳述した。

諸將も之に同意して、評議は忽ち一決した。即座に侍大將大崎六郎を以て詰問の使者となし、城受取の役人を選んで、數多の足輕を添へて遣はした。

大崎六郎は馬を飛ばして、志津ケ嶽の城際に乘り著け、一聲高く、

『城方に物申す。日暮を待つて城を渡さるゝ約束なれば、唯今受取りに向うておざる。速かに法の如く開城致されう』と申し入れた。

此聲の達した時、城中は非常に狼狽したらしく、暫く物騷がしかつたのが、やがて櫓の窓を開いて、

『遲延の段、甚だ以て恐れ入る。唯今退城の用意最中おざれば、暫時御控へ下されたい』と返答した。

『然らば此れにて御待ち申す、急ぎ御退城なされう』

斯う言つて人員を其處に休ませながら、只管城中の合圖を待つてゐたが、待てども／＼城中からは何の合圖もなかつた。見れば狭間といふ狭間には、隙間もなく鐵砲を配置して、却つて開城の支度どころではなく、戰の用意を整へるのに忙しい情況と見た六郎は烈火の如く怒つて、馬を近々と乘り進めた。

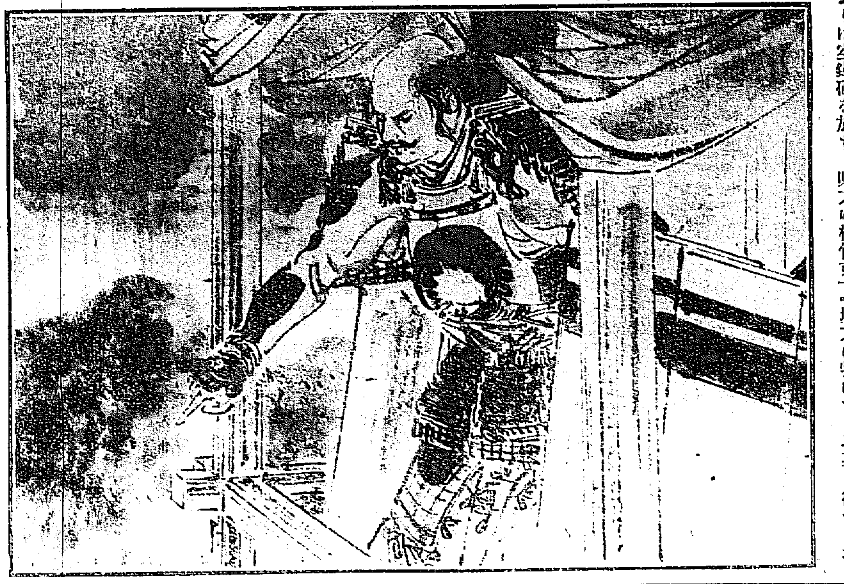
『後藤又兵衛其處に在らば、疾に聞け。先刻唯一揉に踏潰すべき處を、汝の歎願を不憫と心得、夜陰まで期を延し遣はした處、今に至つて前約を忘却し、剰へ戰端を啓く狀、僞りの計略、與快千萬、其儀ならば、只今城を乘り潰しくれうぞ』と大音聲に罵つた。

此時櫓の矢間を開いて、ぬつと現はれたのは、後藤又兵衛であつた。

『愚や越前勢、桑山修理亮、羽田出羽守ともあらう大將が、筑前守殿の命を受けて、預つた要害の砦、縱令十萬騎を以て圍まうとも、容易く敵に渡さうぞ。佐久間玄蕃允暴虎馮河の勇を以て、此城に寄せ來たらば、合戰必定難儀と存じて、其鋭鋒を挫くため、僞つて寄足を躊躇はせたのぢや。知らぬか、筑前守は神の如き眼を開いて、今日の合戰を看破り、大軍を率して歸陣せられ、先手は最早濱に到着したわ。此上は潔よく、合戰して、北國勢を討て散さうよ』と散々に罵り返して、手づから鐵砲を取り上げながら、狙ひ定めて射つて放した。其彈丸過たず大崎の咽喉を貫ぬいて、二言ともなく縡切れた。

同時に矢間々々より鐵砲をつるべ放たれ、城受取の足輕共、死傷する者少からず、散々になつて逃げ歸つたので、玄蕃允は歯嚙をして怒つた。

『其儀ならば猶豫はならぬ。速かに押寄せて、只一氣に踏み潰れや』と、例の鐵棒提げて、はや陣頭に立ち出でた。



出度新年のお寫眞は……
親切で 安くて 上手な
京城寫眞館に限る

新刊紹介

▲黒潮（同人雜誌）[illegible]

▲銃獵界（十二月號）定價金十二錢 横濱市本町 銃獵界社

▲活動寫眞雜誌（一二月號）定價金十五錢 東京 [illegible]

▲實業之世界（十二月號）定價金十一錢 東京市麹町區有樂町一の四 同社

◎『子供之友』新年號　婦人之友社發行の子供之友新年號は普通號よりも一般際立ちて光彩を放ち表紙を始め繪は悉く面白きものばかり讀物もそれ／＼深き用意ありて子供等に與へる雜誌としては他に類無きものなるべし其の他特別附録の甲子太郎雙六を添へたり（定價十錢）

◎『新少女』新年號　婦人之友社發行の少女雜誌新少女の新年號出でたり記事悉く一新され羽仁もと子女史の訓話河井醉茗氏の歴史小說を始め少女向きの記事の取合はせ宜しく無邪氣にして氣品あること他に類なからん新年の投物として大阪柳彩色の家族雙六（竹久夢二畫）を添へたり（定價十錢）

◎講談落語娛樂世界新年號　創刊三週年記念の特號で本文四百餘頁に亘る厖大なる冊子を發行した卷頭石版の口繪と寫眞は例に依つて美しく讀物の講談落語は東京に於ける一流の名人を悉く網羅して十六名の多きに達し各々腕競べの感がある又小說以下雜錄に至つては荷風萬太郎俊子其他知名の人が執筆して居る講談と共に現文壇大家の創作が共に載るのは他の雜誌にも見られぬ本誌の最も誇とする處であらう 印刷賃金拾錢 東京日本橋區 鈴木書店

金融組合登記公告
一平澤地方金融組合ハ移轉ニ因リ主タル事務所ノ所在地ヲ左ノ通リ變更セリ
京畿道振威郡丙南面平澤里參拾番地
右大正四年拾貳月貳拾貳日登記
京城地方法院平澤出張所

限定承認及請求申出ノ公告
拙者儀被相續人酒見震ノ相續人トシテ大正四年十二月二十一日京城地方法院ニ於テ限定承認ヲ爲シタリ依テ右被相續人ノ債權者及受遺者ハ大正五年三月十日迄ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スヘク若シ右期間内ニ申出ナキトキハ辨濟ヨリ除斥セラルヘシ右民法第千二十九條及第七十九條第二項ニ依リ公告候也
大正四年十二月二十三日
住所朝鮮京城府竹添町三丁目六十七番地
酒見震限定相續者
右承認者未丁年ニ付親權者 酒見恒太郎
酒見マツ

商業登記公告
合資會社町田商店ハ大正四年拾貳月拾日仁川府本町貳丁目參番地ニ支店ヲ設置シタリ
商號 大菱商行
營業ノ種類 重石水鉛其他鑛物ノ賣買
營業所 京城府瑞麟洞百五拾九番地ノ九
商號使用者ノ氏名住所 同所 下村泰造
右大正四年拾貳月貳拾壹日登記
京城地方法院

大正五年日記

品名	價	發行所
當用日記大形上製	[illegible]	博文館
同中形總革製	[illegible]	同
同中形上製	[illegible]	同
同小形上製	[illegible]	同
同中長形上製	[illegible]	同
重要日記	[illegible]	實業之日本社
新式當用日記	[illegible]	大倉書店
當用日記上製	[illegible]	同
當用日記小形	[illegible]	同
新式當用日記	[illegible]	積善館
新式當用日記	[illegible]	同
新案當用日記	[illegible]	同
國民日記	[illegible]	陽明堂
修養日記	[illegible]	東亞堂
懷中日記細長形上製	[illegible]	文成社
同小形上製	[illegible]	同
同	[illegible]	同
懷中ノート	[illegible]	實業之日本社
懷中ノート	[illegible]	同
短歌日記	[illegible]	東雲堂
俳句日記	[illegible]	同
俳諧日記	[illegible]	博文館
懷中日記	[illegible]	積善館
懷中日記	[illegible]	同
懷中日記	[illegible]	同
懷中日記旅行地圖付	[illegible]	同
實用ポケット日記	[illegible]	同
Aポケット日記	[illegible]	同
Bポケット日記	[illegible]	同
家庭日記	[illegible]	博文館
家計日記出納記入帳甲	[illegible]	同
乙	[illegible]	同
家庭重寶臺所勘定帳	[illegible]	同
婦人日記	[illegible]	實業之日本社
家計簿	[illegible]	同
新式婦人日記	[illegible]	婦人之友社
主婦日記	[illegible]	同
英文懷中日記	[illegible]	同
かなた詩札取札	[illegible]	同
標準かるた	[illegible]	婦人之友社
諸取兼用標準かるた	[illegible]	朝報社

本店東京 同店大連、旅順、鐵嶺、釜山
京城本町二丁目（電話二〇八六）振替京城二五七三
大阪屋號書店

新龍山三角地の
むしぶろ
どんな病にも能く効く必ず一度御試めしなさい

貴金屬製作時計商
いと岐商店
電話三七〇番 振替七一一番

新酒賣出し
一升 一金拾八錢
古酒 一升 一金參拾錢
各驛迄の運賃當店にて負擔可仕候
但樽代一斗入六十錢。二斗入及四斗五升入は一圓申受候
大邱北旭町
齋藤酒店
電話三四九番 振替八二六番

露國クロパトキン將軍原著 日本大井包高譯
滿蒙處分論
定價金一圓 郵稅金十錢
京城日韓代理部 振替貯金京城三〇〇番

七ふく
本劑は逆上を引下げ胸の痞を開き大小便の通じを快くし婦人病に、ひゑ、しつ、かさ、胎毒其他皮膚一切の諸病脚氣水腫症等によし
賣藥 半週分七ふく入 金拾五錢／壹週分十四ふく入 金貳拾五錢／三週分四十二ふく入 金六拾五錢／五週分七十ふく入 金壹圓
本家 大阪高津表門筋松屋町四 七ふくや 伊藤長兵衛 振替大阪九七三番 電南七貳九番

最上醬油
京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

資本金 五百萬圓
頭取 安田善三郎
京城本町壹丁目
株式會社 **百三十銀行京城支店**
電話五八番・一九四番 振替貯金京城一三番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

比較は最良の撰擇法なり
サクラ正宗
サクラ正宗

京城明治町一丁目
山邑京城支店
電話八四九番 振替京城五七番

森永の菓子
森永 **ミルクキャラメル** 御進物用 美麗函入（大金一圓 小金五十錢）
森永 **ゼリビンズ** 御進物用 新裝優美函入（大金一圓 小金五十錢）
森永 **萬歳ヌガー** 御進物用 新裝優美函入 金一圓
◎其他各種高尚優美折詰め物有之候
▽ニセモノあり 此の商標に御注意を乞ふ
東京 大阪 **森永製菓株式會社**

歳暮御進物

目錄送呈
◎完全無比の實用經濟 **覇王グラス萬年筆**
米國パアレット會社製 眞正十四金ペン先付 最新インキ止式
●諸官衙銀行會社其他團體にて多數御購買の向へは特に割引仕候
●朝鮮總代理店
京城本町二丁目（電話四五番）振替京城二五六番
釘本藤次郎本店

活動よ仁丹　歳暮よ仁丹
十二月は
消化と毒けし **仁丹**

特に
劇務の時　勉強の時
煤掃の時　外出の時
餅搗の時　旅行の時
仁丹離されぬ
仁丹を欠さず
御活用遊ばせ
仁丹 藥價 廿五錢 五拾錢 壹圓
金言
富を致すの難所は、當初一萬圓を積む迄に在り（アスター）

商況

大阪三品
三月限 一二五、一〇 一二五、八〇
四月限 一二五、八〇 一二五、八〇
五月限 一二六、九〇 一二六、七〇

仁川在米
寄付 一五四〇 高値 一五四一
安値 一五三四 止め 一五三七

▲後場の商戰 [illegible]

▲強弱腰入強し [illegible]

▲裏天災と期米 [illegible]

◎五名行衞不明 木浦沖漁船轉覆 [illegible]